

特定非営利活動法人

VOL.27

# 南国暮らしの会

2005 年 新 年 号



平成 17 年 1 月 29 日



NPO 法人 南国暮らしの会

## 目 次

表 紙		頁
目 次		
平成17年新年・NPO法人設立5周年を祝して	No. 24 酒匂 景輝	1
バリ島情報モドキ・パート3	No. 593 小林 繁之	3
ハプニング連続のフィリピン旅行	No. 651 穴見 洋子	5
80日間のロングステイを体験して――ペナン島・バリ島――	No. 524 川崎 勇&千恵	7
大都会バンコク・移住体験記	No. 423 村上 安&幾代	11
NPO法人資格取得5周年にあたり	No. 18 木村 義光	16
NPOとして5周年おめでとうございます	No. 110 藤本 靖人	16
雲の上の近代都市、バギオ	No. 227 斎木 一	17
新春・5周年記念号に寄せて	No. 558 伊沢 豊	20
NPO法人設立5周年に寄せて	No. 128 稲延 裕	22
5周年を迎え、支部長の立場から	No. 487 横井 保夫	23
NPO法人認証5周年記念と関東支部	No. 163 宮寄 哲郎	25
5周年記念を迎えて	No. 625 工藤 俊一	26
東北支部近況報告	No. 218 和田 隆	27
甲信越支部について	No. 96 宮澤 英光	28
NPO法人5周年を迎えて	No. 51 森川 清	28
南の会 NPO法人格取得5周年を祝して	No. 32 寺前 伊蔵	29
NPO法人南国暮らしの会設立5周年にあたり	No. 1 青柳 信	30
「南の会」5周年を迎えて 本会と共に歩んで思うこと	No. 40 平澤 信	31
南国暮らしの会5周年によせて	No. 465 橋本 慧	32
ご近所さん募集	No. 81 足立 ひろ子	33
「南国暮らしの会」NPO法人設立5周年記念に寄せて	No. 581 朝永 美代子	36
南の会は四輪駆動(4WD)	No. 700 安藤 公二郎	37
「ダピタン会」のご紹介	No. 101 高澤 弘晃	39
5周年記念情報交換会報告	No. 163 宮寄 哲郎	42
海外会員への心使い	No. 163 宮寄 哲郎	43
5周年記念行事委員会報告・意識調査回答票の意見	No. 327 市東 明義	45
支部・部会伝言板		48
「南国暮らしの会」商標登録証	No. 259 菊地 功	50
理事長からのお願い	No. 24 酒匂 景輝	51
表紙写真について	No. 345 藤巻 雄二	52
平成17年度継続会員申込み受付		53
編集後記		53

## 平成17年新年・NPO法人設立5周年を祝して

理事長 No.24 酒匂 景輝

### 謹んで新春のお慶びを申し上げます。

今年は夜明けをつけ 光・明るさをもたらす酉年です。鶏は、昔から夜明けをつける縁起の良い貴重な生き物として珍重されてきました。

平成16年は、良い事の少なかった年でしたね。しかし今年も酉年です。きっと岩戸を開ける鶏の雄叫びで、明るい夜明けの光を呼び込んでくれる事を期待しています。

明るく、前向きで、楽しく愉快的な会員は何と幸運な人々でしょう。昨年は日本を襲った記録的な台風、新潟大地震、我々のお世話になる南国では有史以来稀にみる大地震、大津波で十数万の犠牲者が出るなど、その天災を潜り抜け17年の新年を迎える事が出来ました。関東地方では大晦日の雪で元日は白銀の素晴らしい新年を迎え、まさに光り輝く今年の明るさを示唆しているようでした。

今から60年前の酉年（昭和20年）に、日本国は大東亜戦争の末期をむかえ、一億総玉砕（日本国民全員が竹槍で米英ほか連合軍と本土決戦を交え討ち死にする。）を唱え小学生の私共も洗脳され戦う事に違和感を持たずに、学校の授業は殆んど無く、勤労奉仕と空襲に明け暮れていました。また私共男児は櫓の枝を切って示現流用の木刀を作り、これで敵兵と対峙するのだと意気盛んでした。

ところが昭和維新が起きたのです。鬼も怖がる軍閥政治に立ち向かい説得した勇者（鈴木貫太郎首相《略歴は添付資料掲載》）がいて、戦争には敗れましたが、日本民族の滅亡は免れました。この年が日本再建の夜明けだったと私は思います。

戦後の日本人は生きる事に懸命でしたが、皆さんの目は輝いていて、「南の会」会員の皆さん方のように前向きでした。

近頃の世情の荒廃を垣間見て、まさに今年は平成維新の夜明けが来るような気がするの、私のみでしょうか。我々は自分でその夜明けの光を取り戻そうではありませんか。

### \*NPO法人設立5周年おめでとうございます。

良くここまで持ち堪え、5周年を迎える事が出来たと私は感慨無量です。

これも一重に会員の皆様及び役員の皆様、特に前理事長の池田会長のお陰と心よりお礼申し上げます。また、この会の産みの親 元会長の竹内様

に、この様な素晴らしい前向きな仲間との出会いの機会を、与えて下さった事に感謝する次第です。

### \*出会い

南の会はなんと素晴らしい集いでしょう。身分、過去の栄光を云々する事なく、老若男女が違和感なくザックバランな会話出来る集いは、この地球上ではこの会をおいて他にないと自画自賛しております。

この世界に何十億人もの人々が居るのに、僅か800余名の仲間が常に前向きで年齢に関係なく青春を謳歌し、分け隔てない出会いを大切にしております。これからもこの前向きな気持ちを大切にしたいものです。

私の好きな、言葉に「偶然は準備ある者にのみ恵む」（パスツール）と、「青春」（サミエル・ウルマン）と云う詩から抜粋の言葉で

**“青春とは、人生の或る期間を言うのではなく、心の様相を言うのだ。”**

**人は信念と共に若く、疑惑と共に老いる。**

**人は自信と共に若く、恐怖と共に老いる。**

**希望ある限り若く、失望と共に老い朽ちる。**

この会は、この言葉をまさしく実践している方々の集いであると思っております。

日本に居る時は、仲間の集うサロン・懇親会を、また外国に出向いた時は、同じ志の仲間、またメーリングリスト等でこれからの生き方を話し合える事が出来るのは、何物にも替え難い宝物と感じております。 **皆様誠に有り難う御座います。**

### \*南国暮らしの会の現状

・会員数は平成16年12月25日現在で550組（約850名）早くも16年度想定会員数を達成しました。

・会のシンボルマークの商標登録も特許庁にて認証されました。

・定款変更により理事の増員（5名増の20名体制）が10月1日付けで認証され、役員でも長期外国滞在が出来るような体制を確立しつつあります。

・支部組織（内外で16支部）、支部の地区組織もやや組織化され、皆様の便宜を図りつつあります。

**\*将来展望**（理事長就任挨拶に掲げました事項）



下記の事項に対し去る12月の第5回理事会に於いて、委員会及び検討委員会を新設し検討する事にしました。

- ・「南国暮らしの会」事務所開設を見据え、会員1,000人を目指す。(やみくもに増やすのではなくマナーをわきまえた方の増加を希望しています。)
- ・「南国暮らしの会」の自費出版で全国に有料販売を行う。
- ・縁結び相談(ルームメート、茶飲み友達等)の具体化。私の構想は①出来るだけ籍は入れない。②お互いに金の貸し借りはしない。③会員は嫉妬せず、また結ばれたカップルは会員に祝福されるカップルで、あくまでも自己責任で。(本件は理事会で検討の結果、もう少し研究してからにする。)
- ・基盤を固めボランティア活動も推進したい。
- ・天災による会員の罹災者に対する支援を検討する。(定款細則【付則】2項に本会は慶弔見舞制度は設けない。と言う事項があり特例事項を設けるか等検討する。)

### \*南国暮らしの会の歴史

平成9年のラジオ番組(竹村健一氏の対談番組)で、フィリピン滞在の竹内夫妻がゲストで出演され、それを聞いていた私は、「これだ」と思い文化放送に電話を何度も入れ、竹内氏と連絡が取れ東京で面談した折、同じ考えの人が居るので一緒に来てみたらという事で訪問する事になりました。

私共夫婦と西田(現顧問)夫妻が、9月末にフェルトアズールやマニラ界限の体験に出向き、竹内邸に約10日間滞在しました。その折、機内でスモーカーの西田氏と池田氏が偶然知り合いになり、池田氏(前理事長)も竹内邸に一日訪問されるという因縁があります。

このフェルトアズール地域は素晴らしいリゾート地で竹内邸も素晴らしいものでした。毎晩ビール(サンミゲル)を酌み交わしながら南国暮らしの良い話を聞き、竹内氏から自分はこの様な案を持っていると打ち明けられ、それがこの会の礎となりました「南国暮らし夢の会」です。

それまで竹内氏は産経新聞やホームページ、ハム(無線)などで呼び掛けられ、平成9年の年末に横浜駅近くで、南国暮らしに興味のある方に集ってもらい、竹内氏の南国暮らしの素晴らしさを披露して頂きました。

平成10年1月に発起人会を10名位で東京駅近くの店で開き、会を立ち上げる事になりました。

その折、竹内氏は日本人村を作りたいとの事で、

奔走されていたので、会としては日本人村構想には直接タッチしないが会報などでの情報開示には協力する。という条件ならば、酒匂が事務局を担当するという事で、4月25日の「南国暮らし夢の会」発足総会に向けてスタートしました。

竹内氏の個人的な組織ならば、会費は不要ではないかとの案もあったのですが、「無償情報は価値が無い」という事で1,000円を抛出して貰う事に落ち着く。しかし会費を頂くのであれば、会則や会報が必要であろうと言う事になり、また経理も明瞭会計にしようと言う事になりました。

平成10年4月25日に本会の前身である「南国暮らし夢の会」は発足総会にて産声をあげたのです。

平成10年から11年は、皆さん凄く燃えていて、日本人村構想に興味のある幹事や有志がフィリピンに調査に出向き、別のグループの私共は10数人でフィリピン滞在探訪ツアーを組み、フェルトアズール、マニラ界限、セブ界限、ダバオ界限を訪ね環境、住宅、コンドミニアム見学し何とか長期滞在の出来る所であると思い帰国しました。

それから大阪でも会合を開き大いに盛り上がったのですが、そこでも日本人村構想が出て、懇親会では構想賛成者と、単なる南国暮らし希望者のグループに二分される事になり、日本人村構想に不賛成の方から顰蹙を買う羽目になるなど・・・

平成10年3月に「特定非営利活動法人促進法」が制定され、南の会では11年4月に池田監査役(前理事長)をチーフに高澤幹事(現副理事長)、酒匂がメンバーになり委員会が発足しました。

それからは委員が手分けして案を作り纏めては幹事会に諮り(数回)平成11年6月15日に東京都に申請するまでになりました。

この定款原案作成中も、巣鴨の駅で掴み合いの口論をしたり、途中で投げ出したい事もありましたが今思うと懐かしい気もします。

私はトコトン口論し、お互いの胸の内を吐き出せば、自ずと接点は見いだせると思っております。お互い目指すところは、会を、また会員に、広い意味では世の人々に如何に貢献出来るかと言うことです。紆余曲折しても同じ志を持つ者は、究極は同じところに行きつくというのが私の持論です。

その際「南国暮らし夢の会」を、南国暮らしを夢ではなく、現実のものにしたいと言う役員各位の願いを込め「南国暮らしの会」と夢の字を外して改称しました。

平成11年9月30日付けで、東京都の認証を得る

事が出来ました。平成11年11月6日に特定非営利活動法人「南国暮らしの会」の発足総会を開催し、その席で承認され本会が発足したのです。

NPO法人格を取得して直ぐ、産みの親の元会長に退会届を突き付けられ、会が存亡の危機に立ち至った事もあります。(前)池田理事長と洒句が退会届の取り下げの説得役を仰せつかり、三拝九拝の説得を半年ほど掛け数回行ったのですが、(その間、西村理事にも渡比される度に説得してもらいました。)残念ながら取り下げ出来ませんでした。

その時は、会員の大半は退会されるだろうと思っていました。

でも、NPO法人は10名以上の社員(会員)が居れば存続出来ると腹を括り、竹内氏とは離別する事に理事会は結論をだし退任届を受理する事になりました。

結果、平成11年度末の会員数は178組と竹内氏との離別当時より増えていました。その時の感激は未だに忘れられません。

**その節は、皆様有り難う御座いました。**

**来たる「10周年記念」には、盛大な催しが出る会に発展する事を祈念しております。**

**では皆様、南の会の平成17年度はより良き年でありますよう祈念しております。**

## バリ島情報モドキ・パート3

### バリ島の宗教行事、ガルンガン・クニンガン

バリ在住 NO. 593 小林 繁之

#### ★はじめに

「又バリ島か!」と辟易される方も多かろうと思う。バリ愛好者は少数派の南国暮らしの会内にあっては当然のことと思う。特に、私が入会以来、執拗に私に対する攻撃を続けてきた事務局幹部の某氏に至っては、臍を嘔む思いでこの原稿を読むに違いないと思うと少々気の毒の様な気さえする。

しかし会員の方々には平にご容赦戴きたい。これは私が率先した投稿ではなく、ご担当者の依頼によるものであることをご理解の上、バリ島は好きな人、バリ情報が必要な方だけお読み下されれば幸いである。

#### ★HARI HATI ADA UPACARA AGAMA (ハティハティアダウパチャラアガマ)

バリ島を好んで旅する人々の間では既に周知のことなので釈迦に説法の域を出ないが、人口2億人以上の内、90%がモスリムと言う世界最大のイスラム国家・インドネシアの中で、人口300万人の内、93%を敬虔なヒンズー教徒が占めるバリ島は極めて稀有な存在である。

この30年来、世界有数の観光地として急激な変貌を遂げて来たバリ島にあって、勤勉な農耕民族であるバリ人達の日常生活の全ては、極めて忠実にヒンズー教の教義に基づいて営まれている。

バリ島内を1週間も旅すると、必ず何らかの宗教

行事に遭遇する。去る7月の25日には準備に3ヶ月を要した史上最大級と言われる王族の葬儀が営まれ、多くの観光客が見物に訪れたが、例えそれを目にしなくても、道の所々で小見出しの如き看板を必ず見るはずだ。その意味は「宗教行事あり!注意!」と言うことであるが、実はこれが全てに優先する。儀式執行の支障となれば電線を切ることも出来るし、メインストリートを全面交通止めにする事も出来る。バリ人にとってヒンズー教及びそれに伴う行事は、彼らの精神構造、社会形態そのものであると言える。

#### ★ウパチャラ ガルンガン・クニンガン

バリ島のヒンズー教徒にとって重要な宗教儀礼は沢山あるが、島全体で行われる物も少なくない。その中で最も重要な行事の一つに挙げられるものが、ガルンガン・クニンガンである。この二つは密接な関係があり半年毎に島全体で盛大に行われる。只、半年と言ってもヒンズー教の暦は1ヶ月が35日で一巡する為、正確には210日毎に実施されることになるが、祭礼の形態も人々のそれに対する考え方も、大昔の日本の盆の入りと終りに近似している。

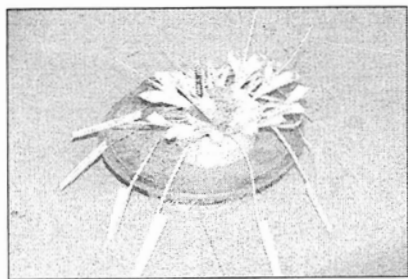
今年2回目当たるガルンガン(盆の入り)は8月11日、その10日後にクニンガン(盆の終り)が行われるが、夫々前後1日ずつも休日となり、日頃は職場近くのアパートに住む人も、一斉に出身の村(カンプン)の祖父母や両親の元に帰省するが、多くの

人々は衣服も新調し厳肅な気持ちでこの日に備える。大祭であるからその為準備作業の量も並大抵ではない。8月11日のガルンガン当日に向けて、その4日前、8日の早朝より準備が始まる。第1日目のこの日はプニャジャアン・ガルンガンと呼ばれ、各家庭の女性達は総出で菓子、飯、果物等、神々への供物とするチャナンの素材作りをする日となっており、5色から成る供物の中身を6種類揃え、各家の敷地内にある家寺を始め、室内の神棚、浴室、台所、食卓、戸棚、電気器具、竈、水瓶、自動車等、定められた供物の置き場所の数分を用意する為、その量はかなりの物となり作業は深夜に及ぶことになる。



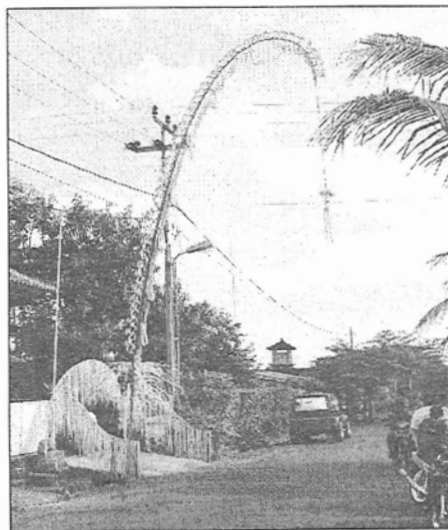
翌日、第2日目はプングジュガン・ガルンガンと呼ばれ、やはり準備の日であるが、女達は前日に揃えた素材を料理し、椰子の若葉を細く割いた物を縫って作った器に盛り付ける作業を行うが、日常生活で毎日20個から30個使用する家でも、この期間に消費するチャナンの数は300個以上に達する。5色の内訳は、赤色はシバ神に、白はウィシュヌ神に、黒はブラフマ神に、黄色は太陽に、そしてこれらの混色が最高神のサンヒャン・ウディに、夫々供えられる物とされている。

男達もこの日は総出でベンジョールと



呼ばれる竹飾りを作成する。これは龍の姿を模した物とも言われ、祭礼中のシンボルとして各家の門前に立てられるが、同時にデコレーションの意味合いも持ち、各家の経済力の範疇で贅を尽くした作りになっており、街中の家々の前に林立する様は見事の一語に尽きる。

3日目に入ると準備も架橋に入り、この日はプナンパハン・ガルンガンと呼ばれ、翌日の食卓に上がる



動物（豚、鶏）を屠殺（ポトンバビ）し料理する日である。

一族の長宅の庭先に吊るされたクルクル（木製の半鐘）が打ち鳴らされると、やがて近所の男達



が大勢集まってくる。彼等は総勢で豚を捕らえ前後の脚を縛り小屋の外に担ぎ出し、聖水で清めた後に庭先に運ぶ。そこには別の男が待っていて全員で押え付けた豚の喉を鋭利な刃物で突いて屠殺する。流れ出る血は一滴も零さず器に受ける。飲用と料理に使用する為だ。屠殺された豚は直ちに解体され、作業に協力した者全員に平等に分配される。屠殺する豚の数は家族の多さや経済力によって異なるが、私が見学を訪れた士族の家は、ガルンガンだけで5頭の豚を屠殺した。女達は分配された肉の到着を待つ料理に取り掛かるが、血も肉も骨も余す所無く使用される。

こうした一連の準備作業の中で、バリ人の心の中にあるゴットンロヨン（相互扶助）の精神が如何なく発揮され、更に結束が強められて行くことになる。

4日目はハリ・ラヤ・ガルンガン当日である。

日本語に訳せばガルンガンの祝日となるが、日本の祝日のような賑わいも派手さもない。人々にとってこの日は厳肅な祈りの日に当てられ、朝から家族全員で敷地内の家寺に詣でた後、近所の寺、村の寺、出身地の寺、更には主人の勤務先の寺に参詣し、過去半年の反省、向後の平穩、そして日々の糧を授けてくれている神々に、心からの感謝の気持ちを込めて祈る日である。

ヒンズーの神々への祈りはバリ人にとっては、貧富や身分の高低に関係なく、日常生活そのものであり、神々の存在は彼らの精神的支柱であり人生の指針でもあると言えよう。

5日目、最終日に当るこの日は、マニス・ガルンガンと呼ばれ、準備開始から祈りの日迄の一連の拘束から開放される日で、人々は新調した衣服を身に着け一斉に街に繰り出す。ある者は子供連れて遊園地へ、ある者は豪華な食事を楽しみにレストランへ、そしてある者は友人・知人宅を訪れ、今後のより良き交流を確認し合う。しかしこれは主に男性がとる行動様式の様である。女性たちは朝から祭礼の後片付けに追われることと疲労が頂点に達していることで外出せずに休養する者が多いと言う。

#### ★ハリ・ラヤ・クニンガン

日本流に言えば盆の終りに当るこの日は、バリ人達の間でも祖先の霊が天に戻って行く日と考えられており、準備開始から最終迄、人々の行動様式はガルンガンと同様であり、前後の一日ずつもやはり公休となる。只一つ異なる点は、クニンガ

ン当日の祈りは昼の12時迄に済ませなければならないとされている。

#### ★おわりに

ガルンガン・クニンガンに限らずバリ島には宗教行事が実に多い。しかもそれが全てに優先すると言っても過言ではない。その為の労働も決して軽くなく、又出費も嵩むことになるが、バリ人たちは決してそれを厭うことはない。

人々は様々な宗教儀礼を通じて神々の庇護の下に家族の結束を固め、地域の連帯をより強化しようと努める。

バリ島を訪れる日本人の中には「だからバリ島には経済的発展がない」と、したり顔で言う人も多い。エコノミック・アニマルと呼ばれる日本人の目から見ればその様に見えるかも知れないが、実はバリ人達は、様々な宗教儀礼を通して神々と触れ合うことで自らの心の豊かさと真の安寧を求めているのだと私は思っている。

終り

## ハプニング連続のフィリピン旅行

福岡県在住 NO. 651 穴見 洋子

今になって思えば平成16年8月26日の九州支部サロン会がハプニングのスタートだった気がします。

サロン会で「日系人の誇りを守りたい」のビデオを観たあと、九州支部でフィリピンのスービックとバギオにLS調査旅行をしようという話になりました。

その時、私はすでに近畿日本ツーリストが募集していたクアラルンプール、ペナン、キャメロンハイランド、ゲッティンハイランドへのLS体験ツアーに参加申込みをした後でした。でも、ビデオに出てきたパンガシナン、バギオの地名が私の耳には懐かしく響いて来たのです。

それは20年前のことです。我が家の近くにある農業研修センターにパンガシナン出身の女子学生のリリーさんが留学してきました。そしてひょんなことから彼女と友達になりました。彼女は研

修終了後帰国、フィリピンからの便りにバギオのホテルで働いていると書いてありました。それから数年が経って日本人男性と結婚し再来日し大阪在住となりました。福岡と大阪で文通は続いていたのですが、或る年の年賀状からプツリ連絡が取れなくなり10年近くが経っていました。もしこの九州支部の旅行に参加すれば彼女の実家を調べるチャンスがあるかも…、そうすれば彼女の現況が分かるのでは、と思ったとき、私はマレーシア旅行をキャンセルしてフィリピンに行くことに決めました。ところがフィリピン行き最終日程調整の段階で、旅行社から10月のバギオは寒くなるので時期的に訪問は見合わせた方が良いでしょうとアドバイスがあり、行き先をスービックとブリエトアズールに変更する話になりました。

一番行ってみたいパンガシナンとバギオが計画からはずれることになり、さあどうしようとい

う時、会員No. 581朝永さんが、途中からブリートアズール組とバギオ組2手に分かれる案を九州支部長と副支部長に提案してくださいました。

お二人のご理解を得ることができ、福岡出発後スービックまでは全員で行動、その後2手に分かれて帰国前日マニラで再集合、翌日全員揃って帰国する行程に変更していただきました。

希望は叶ったもののフィリピンははじめてのおばさんが2人、大丈夫かしらと不安に思う私たちがパンガシナン在住バギオ支部長の齋木氏が全面的にサポートしてくださいました。バギオ行き決



定から齋木氏との間で行程の打ち合わせはもとより、手荷物の準備、旅の心構え、フィリピンの歴史など何度もメールをやりとりして教えていただきました。

そんな状況の中、厚かましくもリリーさんの実家を齋木氏に連絡して探してもらえないかと申し出てみました。

齋木氏からの返信は「連絡の住所では実家を探すのは一寸困難かもしれないが探してみます、あまり期待はしないでください。」とのことでした。もともと無理なお願いでしたので諦めていたら数日後、齋木氏の自宅から車で30分位の所に家が見つかり、齋木氏が実際にリリーさんのお父さんや兄弟に会われて、彼女の現住所と電話番号が分かったと知らせてくださいました。その夜、早速大阪のリリーさんに電話をして旧交を暖めることができました。今度フィリピンに行くのであるあなたの実家を訪問しようと思うと伝えると、彼女は心から喜んで是非そうしてくれと言ってくれました。

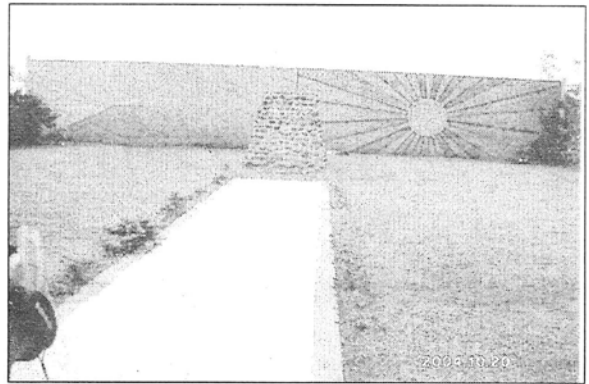
10月21日パンガシナンに到着した私達は齋木氏のご家族と一緒にリリーさんの実家を訪問しました。

リリーさんのご両親はもちろん、臨月のお腹を抱えた妹さんも私たちに会うために里帰りしてあり、兄弟の方々も商売の質屋さんをいつもより早く店じまいして帰ってこられ、みなさんで歓待してくださいました。みなさんとの会話の中で分かった

のですが、リリーさんのおじいさんは日本人で日本名は樋口さんだったそうです。でも大戦中スパイをしていたので身の安全を考え、姓をフィリピン姓のクインテロに変えて生活してこられたとの事でした。リリーさんは日系フィリピン人だったのです。

日系といえばバギオにある日系人会「アボンの会」で齋木氏の奥様がボランティアで日本語を教えておられます。リリーさんもリリーさんの兄弟も若い頃そのアボンの会で勉強されたとのことで話が弾みました。

もう一つのハプニングです。マニラからウルダネータに向かう途中でマバラカットという町を通過する時、「神風東飛行場平和記念碑」に立ち寄ってくださいました。きれいに整備された広場の正面壁面には幅一杯にフィリピン国旗と日本海軍旗が左右同じ大きさで描かれ、広場中央に高さ2m位の四角い石塔が建ててありました。掲げてある説明板には、この地は日本の神風特攻隊がレイテ島沖の米機動部隊に対して世界で初めて人間爆弾として飛び立った場所と記してありました。



「レイテ島沖」と読んだ時、私は鼻の奥がツーンと痛くなって涙がポロポロ落ちて来ました。実は私の舅は第二次大戦中海軍中尉として戦況が厳しくなっている日本軍に物資を届けるため出航してレイテ島沖で撃沈され戦死したと聞いていました。普段忘れがちな舅の存在をあらためて身近に感じた瞬間でした。

10月25日バギオ・ウルダネータの視察を終え往路と同じ道をマニラに向かう途中、その記念碑の周囲に多勢の人が集まっているのが見えました。あわてて車を止めてもらい立ち寄ると、四角い石塔の上に白い布で包まれた物が置かれその前では日本のお坊さんが3・4人読経をしています。何分もしないうちに白い布は取り除かれ、石塔の上には飛行服を着た神風特攻隊隊員の像が凛とし



と姿で建っていました。よりもよって除幕式のあるその日、その時刻にこの場所を通過した事はただの偶然とは思えませんでした。一人息子の嫁



である私に何かを伝えたくて舅がこの場所に私を導いたのでは…そんな気がして泣けて泣けて仕方ありませんでした。式の関係者でもない私が飛び入りで列に並んで泣いているので不思議だったのでしょうか、日本から取材に来ていたテレビ局の方にその訳を尋ねられ、

取材に同行しておられた俳優の今井氏からのインタビュー模様が撮らせてくださいと頼まれ、生まれて初めてテレビ出演（編集中にカットされなければ）のおまけまで付きました。帰りの車で齋木氏が「この道路はつい最近まで工事中でいつも別の道を走っていた」と話されたのでこれも不思議でした。

10月26日帰国当日マニラ空港で搭乗案内を

待っていたときの事です。一人の男性が近づいてこられ「あなたはマバラカットの除幕式におられた方でしょ？」と声をかけて来られました。その方もやはりお父様がフィリピンで戦死なさっていて、一人旅をしながら日本兵の遺骨を収集されているとの事でした。今回の旅でも2遺体分の遺骨を収集してフィリピン人の友人宅に預けてきたこと、後日来比することになっている遺骨収集隊が友人宅に引き取りに行くよう今朝、日本の厚生労働省に連絡したと話してくださいました。私は舅の戦死の事を話し、姑には昭和19年7月30日戦死の報と白木の空箱だけが届けられ軍機密として詳しい情報は何も伝えられないまま現在に至っていることを話しました。すると調べる方法があり、厚生労働省の援護局に必要な書類を添えて申請すること、県庁に軍歴証明を請求することなどを教えていただきました。

今回は始めから終わりまで見えない糸に導かれて旅を続けたような気がしています。リタイアしたら夫婦で一番にフィリピンへ慰霊の旅をしようと決めました。

LSには全く関係のない長文を最後まで読んでいただいてありがとうございました。恐縮ですがこの場を借りて今回の旅にお力添えいただいた方々に心よりお礼申しあげます。

ありがとうございました。

## 80日間のロングステイを体験して —ペナン島・バリ島—

東京都在住 NO. 524 川崎 勇&千恵

本年、3月末日で現役生活を卒業して、いよいよ私達二人の夢の実現の時期到来と考え、80日間の旅立ちです。これまでの海外体験はその地での生活をするという考えではなく、せいぜい1~2週間の海外旅行の気分。旅行社のパック旅行が中心です。飛行機の便から現地の観光、ホテルのチェックインまで現地のツアーコンダクターまかせ。自分達でやらなければならない旅行の手配からのスタートです。幸いにも2年前に「南国暮らしの会」に入会したお陰で、サロン会での情報収集や、現地の支部長の支援をいただいて、何とか現地入り

ができた。現地で右も左もわからない時にも、アドバイスをしていただいたことで、80日間充実した日々を送ることができ、これからのロングステイの自信にもつながった。今回投稿させていただいたのも、これから海外に同じ目的で考えている方々へ多少なりとも参考になっていただければと思いついて投稿させていただいた。内容は80日間（ペナン60日間、バリ島20日間）を終えて帰ってきた9月の関東支部サロン会で体験談を発表した内容に、その場で話が出来なかったことと、その後、ハワイにショートステイした感想をおりませ、3島

(ペナン、バリ、ハワイ) をロングステイの観点から私見ですが比較してみた。ご一読いただき、参考にしていただければ幸いです。

### 〔I〕新たな友づくり

会社を卒業した我が身は、友達のあまりにも片寄った人間関係を実感した。毎日のように会社の仲間との飲み会、ゴルフ会など会社がすべて、行動のベースになっていたこと。会社に足を運ばないように自分ながら努力していたが、気がついたら女房が友達。日々の行動までが気になる生活パターンになっていた。これではいけないと思ったのが海外への脱出と友達づくり。まず、会友の皆様、ペナンでは6組のご夫婦がステイ中。ちよくちよく食事会やサロン会などに誘っていただいた。現地での生活のベースになる心強い会友の皆さんである。木村支部長のお話ではここ1~2年でペナンでのロングステイヤーが倍増すること。益々多くの友達に恵まれそうだ。他にできた友はホテルに2ヶ月滞在中のミドルステイヤーとでも言うのでしょうか、比較的長いホテル滞在者との付き合いが楽しい。中華料理が多いペナンでは夫婦二人で中華料理を食べるより、仲間とともに食べる方が種類も多く食べることができるし、経済的で、しかも仲良しになるのも手取り早い。よく一緒に食事をした。日本に帰ってきてメール友でお付き合い願っている。早朝やっている太極拳の現地グループに飛び入り参加させてもらい、そこで知り合ったペナン在住の日本人家族、中国系マレーシア人とも数名の友ができた。特に嬉しかったのは、現地の日本人が毎週1回「金曜会」と称してゴルフ会を開催しているメンバーに入れてもらったこと。次回のペナン入りを待っていてくれる。もう一つは中国系マレーシア人が帰国時に有志3名が送別会を催して、またの再会を約束したこと。今後の私の人生にとっての大きな財産である。

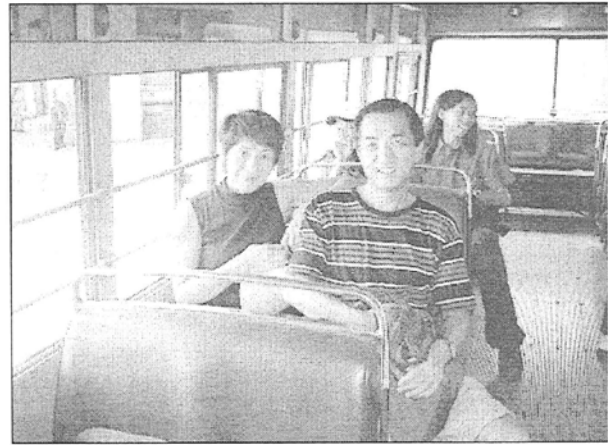


### 〔II〕ペナンはロングステイの必須条件に平均点以上

(ペナン、バリ、ハワイの3島比較)

### ① 気候(6月~8月滞在)

ペナンの日中は暑い。午前10時から午後5時の間では道路を歩く人は疎らである。車社会のため冷房の効いたショッピングセンターや屋内スポーツセンターなどは混雑している。午後6時ぐらからは段々しのぎやすくなり、ディナータイムの



7時ともなれば、風の吹き通しの良いレストランはシーブリーズ(海風が爽やか)が気持ちいい。ビールがなんとも喉越しがいい。翌朝、8時ごろの太極拳の終了時間までは爽やか続きである。ハワイよりは湿度が高いが、妻に言わせれば肌には多少しっとり感があるペナンがどういう訳か合うらしい。バリも海岸沿いの町(クタ、スミニャックなど)は同じ。多少標高のある村(ウブド)は気温も高すぎず過ごしやすい。

### ② 治安

夜でも明るい繁華街は女性の一人歩きでも心奪ないが、「日本人はお金を持っている」と思われるのはどこの国でも一緒。引ったくりにあったりするの3島ともそう変わりはない。夜の暗い道の一人歩きは男女とも注意が必要なことは言うまでもない。よくショルダーバックはタスキ掛けでと言われているがこれが危険な時がある。後ろからひったくられる時に転倒して大怪我をした人がいた。その時はタスキに手が掛からないように一枚重ね着をするか、バックの中には取られても大きな問題にならない物だけしておくことが好ましい。私達は財布は二つ以上(小銭入れは除き)を持つことにして、そのうち一つはあげても構わない程度の紙幣を入れておく

ことにした。

### ③ インフラ

上下水道、通信、交通、道路整備、清掃などのインフラについてはハワイやペナンは優れている。ペナンでも一部建物が古く、汚れた町（中華街、インド人街）があるが、新築コンドミニアム群が立ち並ぶ地区は道路整備や溝掃が行き届いて気持ちがいい。バリはその点、ごみ処理問題や道路整備や清掃が行き届かず生活すると言う点では劣るようだ。

### ④ 医療

ペナンにロングステイをするにあたっては、このことが一番不安であった。出発前に酒匂理事長にメールをしていろいろご教示いただいたことが大いに役立った。「ちょっとした事でもよいから、病院にかかっていらっしやい。見学のつもりで日本と違ったサービスの良さを味わえるから」と言われ妻のちょっとした発熱、風邪でローガンライスペシャリストセンターという市内では比較的大きな24時間日本語対応サービスのある総合病院にお世話になった。妻が珍察待ちの間に館内を案内してくれると言う。

MR I、CTは整っているし、入院病棟も外国人向け病室は立派であった。二段階の部屋が用意されて高い方でも1泊1万円、他は7000円でホテル並みの個室が利用できる。今回の費用は4500円。

他にも24時間日本語対応の総合病院は2箇所あるようだ。ハワイでは、お世話になったことはないが、日本人観光客が多いところだけに、同等以上の施設の病院はあると思う。

バリでも中心都市デンパサールでは、日本語対応の総合病院はあるが、私の滞在したウブドの街はクリニック程度しかない。

### ⑤ 生活費（ホテル、コンドミニアム賃貸価格）

私の2ヶ月間滞在したホテルはペナンの北側、リゾート地とダウンタウンの中間で両方の目的が達成しやすいタンジュンブングの街だ。リゾートホテルが3件並んで建っていてその周辺には高層のコンドミニアムが立ち並んでいる。

会友の木村支部長はじめ4夫婦の方々もこの街で生活を楽しんでいます。コプトンオーキッドホテルを月極め契約で2ヶ月間借りたが、月12万円で借りることができた。

ロングステイを将来考えている私達は、コンドミニアムを借りるつもりだが、会友の方々の相場を聞くと月4.5万円から7.5万円で借りている。

ハワイでは、ホテルでもこの金額の2倍はするし

コンドミニアムにおいては3倍はする。

バリのウブドはホテル形式はほとんどなくパンガローと言われるバリの風情を味わえる一戸建てや長屋風の建物が月5~6万円で借りられる。借りる物件の多さと価格帯の多さから見てペナンは年金で暮らせる住環境は整っている。

### ⑥ 食べ物その他の物価

ホテル滞在のためすべて外食の生活を送った。ペナンもバリも外食文化が進んでいてしかも現地食を現地人と一緒に食べれば1ヶ月の食費は驚くほど安い。コンドミニアムを借りている人たちは自炊をすればさらに安価な食費で済むだろう。

食材もスーパーで日本食材が調達できるが輸入税が乗っているせいかやや高めである。

特に高いと思うのはアルコール類で焼酎、日本酒は日本の2倍以上、ビールは日本並。

ランチやディナーの食事代は中級クラスのレストランで二人で¥1,000~¥1,500。カフェと言われるリーズナブルな所では¥500~¥1,000もあれば充分。しかもペナンとバリはチップが無いのもありがたい。ハワイはいつも価格の2割増しと思って食べていたが価格自体がペナンと比べて3倍、バリと比べて5倍はする。

また、ペナン、バリは車が高い。輸入税が乗っているので日本車は日本の1.5~2倍ぐらいする。ペナンではマレーシアの国産車プロトンが、リーズナブルだが、日本車が人気がある。中古車として売る時は高く売れるので、償却費で考えれば、似たり寄ったりかもしれない。

### ⑦ 食べ物の美味しさ

個人的な感想だがペナンの食事はなんでも口に合った。ペナンの人口の70%が中国系マレーシア人で中華料理店が多く味も私に合った。

中華料理とマレー料理の合いの子と言われるニョニャ料理もなかなかのものでした。

バリはインドネシア料理で外食した3週間飽きることはなかったが、日本食店へは何回か通った。ハワイは何でも楽しめるが外食ばかりの生活では費用がかかり過ぎる。

### ⑧ 遊覧費

ゴルフが主なリクレーションである。プレー費は3島を比較すると断然ペナンが安く出来る。ゴルフ仲間では最も安くプレーできるランクの一つであると言っている。

55歳以上の人は、パスポートのコピーを持参しているとシニア割引が適用されるゴルフ場が多い。ハワイやバリは観光地価格か1万円~1.5万円する

が、ペナンはその3分の1以下でプレーができる。エステやマッサージは物価に比例してかバリが一番安く続いてペナンと言ったところ。

### ⑨ フレンドリーな親日家が多いバリ

人なつっこいと言うか日本語習得熱が強いフレンドリーな国民性はバリが一番。歴史的にみても日本との友好関係が築かれた証なのかもしれない。そういう点ではマレーシアの経済発展に寄与してきた日本企業の多いペナンでは親日家も数多い。ハワイではあまり味わったことがない感触を味わった。

以上の9項目で3島の比較をしてみたが私はすべての項目においてペナンは平均点以上の評価ができた。



## 〔Ⅲ〕今後参考にしていただきたい成功例・失敗例

### 成功例その1

クレジットカード付帯の海外旅行保険の利用を！  
この点については病院利用のところで触れた酒匂理事長からそのノウハウを伺った。いままでの海外旅行は損保会社の海外保険に加入していた。旅行期間も短く保険料もさほど気にならなかったが、3ヶ月ともなると大きな保障を付けなくても二人で5万円の費用がかかる。その点、クレジットカードの付帯保険はなんともありがたい。傷害死亡5千万円位付いたものが多く、(疾病死亡には適用なし)複数枚持っていても保障は合算されないが、その他の保険(例えば、治療費用、救済者費用、携行品保険など)はクレジットカード会社の合算適用を受けられるといった優れたものの保険である。90日間で帰国しなければならぬ。カードを複数枚持つことをすすめてくれた。カードの年会費も1枚1万円程度から2千円程度のもの

もある。今回、妻の風邪でかかった費用も現地で現金払いした後、帰国してから手続きして全額費用負担があった。カード払いが出来るものもあり現金なしでかかることができるが今回は現金払いをしてきた。医療費の安いペナンではこの付帯保険で大丈夫と思った。

### 成功例その2

#### 周遊格安航空券で周遊のたびを楽しみたい！

今回のロングステイはペナンとバリ。航空券も3ヶ月FIXオープンチケットを購入。驚いたことに、なんと成田からクアラルンプール(KL)を経由ペナンの往復チケットが一人80,800円(2005.1月価格)、ペナンからバリを経由してくるチケットは78,800円。

ペナンとバリ間を余分に買ったチケットの方が安いということを知った。次の機会にも周遊チケットを利用して一度に2国のステイを楽しみたい。航空会社はマレーシア航空の一社のみ。他の航空会社とジョイントするときと割高になる筈だ。できるだけ一社のルートから選択することをお薦めする。

### 失敗例その1

#### クレジットカードのスキミングによる被害例

滞在していたホテルで知り合った方に聞いた話。その方はクレジット会社に勤務していた。特にマレーシアは東南アジア諸国の中でもスキミング技術が高度でその被害も多いそうだ。「クアラルンプールの免税店は気をつけなさい」と聞いた。たまたま滞在中に息子夫婦が遊びに来た。免税店の話をしたが保険付きだから心配ないとカードを使った。後日、精算がきた時には、スキミングされた偽造カードが九州で使われていた。

### 失敗例その2

#### ロストバゲージ対策をとっておこう！

ペナンに限らず東南アジア諸国を旅行される方は注意したにこしたことはない。何割かの荷物が目的地に届かないトラブルが多い。機内に手荷物で持ち込むバックには一日は充分間に合う物を入れるべきである。そのようなケースを知っていて手荷物にはすぐに必要としないお土産や壊れ物などだけ。必要な物は全て預けてしまった。ペナンからバリに移動した時、まさか自分にはないと思っていたが、荷物はシンガポールを一人旅して、24時間後にバリに着いた。着の身着のままの一晚を体験した。

### 失敗例その3

#### ウブドの画替商に感謝！

報の「春季号」にバリ繁華街クタでの両替だましのテクニックとして投稿した。両替商は要注意の印象を持っていた。今回も、ウブドの街の両替商で両替した時に一瞬、同じ体験をしたかと思っことが起きた。3万円で244万ルピアを受け取ったつもりでいたが、ホテルに戻って勘定したら204万ルピアしかない。目の前で自分で勘定してのミス。その場なら不足分を受け取るが、如何せん財布にしまってから気がついた。後

の祭りと諦めたが、駄目もとでその両替商に走ったところ、両替商がバイクで私のホテルまで間違いに気づいて連絡にきてくれた。疑ったことに自戒の念を抱き、「いい人に会った！」と思い、以降、レートに関係なく彼のところで両替をした。二人で行ったときは、二人で確認するようと思った。

以上がペナン、バリのロングステイの体験です。参考にしていただければ幸いです。

## 大都会バンコク・移住体験記

バンコク在住 NO. 423 村上 安&幾代

その地に住んでみて：2004年4月にバンコク入りして、早や、3ヶ月が過ぎました。何も付いていないコンドミニアムを賃貸で契約しましたので、全て揃えなくてはならなかったため、最初の1ヶ月位は買い物だけに終始したように思います。その後、生活必需品も少しずつ揃え、やっと、人並みな生活が出来るようになりました。

私達は、50数年間、茨城の片田舎に住んでいたものですから、バンコクの都会暮らしが、こんなにも便利で、また、刺激があり、面白いとは想像すら出来ませんでした。当分の間、この地に落ち着くことになりそうです。これもひとえに、会員のO氏はじめ、その友人の強力な後押しが得られましたので、比較的スムーズに、異国の地“バンコク”での新生活を、エンジョイすることが出来ているのではないのでしょうか！よく、「遠い親戚より近くの他人」という諺を耳にしますが、私達の場合、「近くの親戚より遠くの他人」という事の方が実感として強く感じています。本当にありがたいことです。海外で暮らしている多くの方が同じ思いをしているのでは？と、勝手に想像しています。

**その地を選んだ理由：**一番下の子（15歳）が希望する「インターナショナルスクール」を何処にしようかと悩みに悩んだ末、治安・物価・国民性等を考慮して、最終的に「バンコク」にしようとした決めた次第です。その間、チェンマイ、ペナン、

クアラルンプールと、現地の支部長さんをはじめ、会員の方々のお世話になりながら色々なスクールを視察させて頂きました。まさしく、「南の会」の強い絆を肌で感じ取ることが出来ました。

そして、なぜ、「バンコクなのか」ということですが、やはり、前述した理由と、会員O氏とそのご家族の人柄に魅せられたこと、また、そのお子さんが2人共、「インターナショナルスクール」に通学しているということが、私たちや子供にとってもいちばん大きな決め手になったのはいうまでもありません。

**生活情報（ビザ、環境、食べ物、交通事情、遊ぶ場所等々）：**「ビザ」日本を出発する際、シングルの観光ビザを取得してバンコク入りし、現地のエージェントに全てを託しました。1ヶ月のビザ延長申請、更に1年のロングステイビザを申請したのですが、何故か？最初は3ヶ月のノンイミグランドビザ、カテゴリー“0A”しか貰えませんでした。2回目の申請で、やっと、来年の4月3日（入国日が4月4日）までのビザを貰うことが出来ました。

私達は、日本では何の書類も持たずに訪タイし、前もって開設していたバンコク銀行の口座に2人分、160万Bを振り込んで、その送金証明と預金残高証明でビザを取得することが出来ました。かなりの申請手数料になりますのでタイでのロングステイをお考えの方は、少々面倒かもしれませ

んが日本でロングステイビザを取得することをお薦めします。

「環境」今、住んでいる所は23階建てビルの11階です。トンローのソイの一番奥で「センサーブ運可」のほりです。近くには高層ビルもなく緑も多いので眺望がよく、まさしく「リバービュー」といったところですよ。日中は、風通しがいいのでドアも窓も開けっ放しです。エアコンは、ほとんどといっていいほどつけたことはありません。電気代の節約に大いに役立っています。さすがに夜は窓を閉めますので、エアコンの力を借りることになります。

いいことばかり述べてきましたが、どっこい、そうは問屋が卸しません。タイ庶民の交通の足である運河を走るボートの騒音がうるさくて、慣れるまで少し時間がかかりました。それと、バンコク全体に言えることだと思うのですが、運河の浄化と排気ガスの規制が最大の課題ではないでしょうか!? これがある程度クリア出来れば、「田舎暮らしに少々飽きたな〜」と思う人には、とても住みよい街になるのではないのでしょうか。

「食べ物」私達は、何処に行っても現地の食べ物が、「口に合わない」と思ったことはありません。特に、タイとマレーシアではまずい物にお目にかかったことはありません。

バンコクは、東南アジア第2の都市だけあって日本で流通している物は全てあると思います。若干、魚貝類が高めかな?と思うくらいです。伊勢丹、ジャスコ、フジスーパー等に行けば何でも揃います。私たちは、日本食材は高いので、それに替わるタイ産の食材をスーパーや市場で調達して料理しています。なお、タイの食文化は、基本的に3食とも外食が主流ですから、私たちも、家と外食半々位で屋台やスーパーのフードコート、たまに、安い日本食レストラン等で飲食しています。本当に安い(20B~80B以内)です。特に果物類は種類が多く、なにを買ったらいいのか迷ってしまいます。私のいち押しは、果物の女王と言われている「マンゴスチン」(1キロ20B~40B)と、甘くてとてもみずみずしい「ランプータン」(1キロ10B~25B)それと、定番の「スイカ」(1個20B~35B)です。

「交通事情」こちらに来た当初は、BTS(スカイトレイン)やタクシーを主に利用していました。日本から見たら「何て安いだろう」と思っていました。でも、それが、バンコクでは高い乗り物だという事に気付き、今では、サイアム方面の伊

勢丹や日本大使館の斜向かいにある「98B食べ放題の焼肉店」(これは、お値打ちです)に行く時等は、すぐ目の前の船着場からボート(5B~9B)を利用。王宮方面(エメラルド寺院、ワット・ポー、暁の寺院)、カオサン通り(タイとは思えない雰囲気)シーナカリン方面(バンコク最大のスーパー、シーコンスクエアー)等に行く時は、渡し舟(1B)で川を渡り、ペプリ通りへ出て、バス(ノンエアコン4B、エアコン10B~20B距離制)を利用しています。また、食料品や日常雑貨品の買出しは、何でも揃っているフランス系の大手スーパーマーケット、カルフル(地元ではカフー)の無料フリーバスを上手く使いこなしています。今までに、日本人と乗り合わせたことはありません。もう、すっかりタイ人?になったような感じです。さらに、地下鉄も開通しましたので、朝夕の、もの凄い交通渋滞が、「少しでも解消されればいいな〜」と思っています。あっ!ひとつ忘れていました。BTS利用促進のために運行している、無料フリーバスも見逃すことは出来ません。「プロンポン駅」に通じている「エンポリウム」に行く時等は大いに利用しています。高級ブランド品からタイ雑貨等、ありとあらゆる物が揃っています。都心に住んでいる限り車の必要性はさほど感じません。必然と歩くことが多くなりますので健康増進にも大いに役立っています。

「遊ぶ場所」タイでは、バンコクに限らずどこのリゾート地へ行っても、ありとあらゆる遊びが可能ではないでしょうか。少し、小銭を持っている殿方なら遊びつかれて日本へ帰るのが嫌になるのではと、心配してしまいます。ここでは、会員の大多数の人が大好きだと思いますので、ゴルフについて少し述べてみます。

バンコクに来てから、会員の0氏のお誘いを受けて、5箇所のゴルフ場で10回程プレーする機会に恵まれました。何処のゴルフ場も車で30分~40分位のところにあります。コースは総じて綺麗で平坦、フェアウェイとグリーンの微妙なアンジェレーションと、池やクリーク等が巧みに配置されているので、シングルプレーヤーからビギナーまで幅広く楽しむ事が出来ると思います。私のゴルフもなかなか思い通りにはなりません。いつも、「今度こそは」と思いながら帰路につく有り様です。

気になる費用のほうですが、平日のスポーツライを狙ってプレーすれば、グリーンフィー、キティフィー、カートフィー、チップを全て含めて、

おむね、1, 000B~1, 300B位です。

都心から、1時間以内で行けるゴルフ場が50~60箇所位あるそうです。とても全部のコースを制覇するのは至難の業だと思います。どなたか、挑戦してみたいはいかがでしょうか？

**現状に満足？**：結論からいいますと、概ね満足しています。現在住んでいるスクンビット地区のトンローという所は、日本人経営の飲食店が集中している「日本村」等があり、駐在員さんや長期滞在者にも人気が高いそうです。私達のコンドは、駅からは少々離れていますが乗り降りどこでもOKのミニの赤バス（3B）がトンロー駅とソイの一番奥まで10分間隔で運行しているので、ちょっとした買い物や用足しに毎日のように利用しています。また、借りているコンドは2LDK（98㎡）で共益費込み、月額10,000Bです。こんなに安い物件はそうそう無いのではないのでしょうか？しかも、ちゃんとサウナ、ジム、プールまで付いています。妻と一緒に、週3~4日利用しています。たった2ヶ月で、体重を5キロ程落とすことが出来ました。そして、高血圧の薬とも“オサラバ”する事が出来そうです。

#### 妻の一言：

私はこれまでに色々な国を見聞してきましたが、その中でもバンコクは大好きな部類に入ります。確かに良い所ばかりではありませんが、それを補う素晴らしい面を持っていると思います。バンコクの良い点は、日本と同等に近い生活が維持できてなおかつ、物価の安さ、治安の良さ、バス路線の充実と田舎では味わえなかったエネルギー感です。街全体が活気で溢れ、田舎で暮らしていた私は、最初の内は少し圧倒されてしまいました。

**余談**：バンコクに来てから、日本ではとても味わうことが出来なかったと思うことを体験しました。何と！英国BBC国営放送の“テレビドラマ”にエキストラとして出演する幸運にめぐまれました。役柄は、日本人中高年サラリーマンが、カラオケバーで仲間6人と、へたな英語で「飲んで歌って騒いでいる」という場面と、旅行者がカオサン通りを行ったり来たり買い物をしたりという場面でした。午前6集合、午後6時20分散散という長丁場でした。英語の歌にはちょっと面食らいましたが、NGもほとんど無く無事撮影を終えることが出来ました。本当に、“バンコク”は何でも有りて面白いところだと実感しました。ちなみに、ギャラは2,500Bでした。いや～！疲れたけど面

白かった～・・・。

**妻の一言2**：「インターナショナルスクール」についてです。我が家の下の息子が小学生の頃から「高校は外国へ留学したい」との希望があり、叶うべき進路を見出して上げられるよう心がけてきました。まずは、アメリカ、ここは私の姉がおりますので、6年生卒業と同時に行き見せました。本人もこの学校ならと、将来について話し合いましたが9・1・1の事件で閉ざしてしまいました。そこから本当の高校探しが始まりました。時間はまだ3年あると思いながらもサー！いよいよ「何処にしましょうか？」です。それと私達もまだ何も出来ない息子を一人ですのはどうしても出来なかったので一緒に行こうと決めました。物価が安く、安全で暖かいところ、（贅沢ですが）もちろん高校がしっかりしているところを探すのは言うまでもありません。その時ほど南の会の方々の暖かい心を感じたことに**感謝！感謝！**です。本当にありがとうございました。ここ“バンコク”にしましたことは先に記したようなわけで決め、念願の手続きに入りましたが、「日本からの学校提出書類はいらぬ」とのことでしたのでまず、観光ビザで入国しましたが、やはり「提出書類は必要」とのことになり、急遽中学校へ連絡し必要書類を送ってもらい、健康診断書、大使館領事部へ行き卒業証明書の証明をもらい、やっと学校提出です。その間一度で済む事でも今日はこれ、又次はこれ、の連続でした。言葉が出来ず何度やめたいと思いながら校門をくぐったことか・・・ビザのことで同じで、一度に出来るものを何度も通いました。今でこそ、息子と二人で笑い話になっていますが・・・。（2004年7月現在）と、ここまでは、トンローのコンドでの生活の一端を述べましたが、ちょっとした「ハプニング」とその後の郊外での生活状況を妻と息子の視点も含めて述べてみます。

「ハプニング」賃貸していたコンドを退去する羽目になりました。何と、オーナーが売りに出していたのです。そして新オーナーが「自分達が住むので出て行ってほしい」というのです。長期で借りられるということだったので床のタイル等を張ったし、エアコンは3台も取り付けました「いったいどうしてくれるの？」という状況でした。最初は「どうにもならない」と事務員は、にべも無かったので諦めかけたのですが、英語のできる日本人（茨城出身）のTさんが仲裁してくれて、タイル代の全額と新居へのエアコンの取付け費用の

一部を払って貰う事が出来ました。異国の地で日本人が日本人を騙すことが多い中で、本当に親切な同郷人に感謝・感謝です！！

「新居での生活」本来なら、来年の2月まで契約が残っていたのでそんなに慌てなくてもよかったのですが、ちょっとケチがついたようで嫌だったので映画関係で知り合ったTさんの奥さん（タイ人）に相談したところ、「私の友達が家を貸していいといっていますよ」というので、早速妻と息子が見に行き、気に入ったらしくその場で「3ヶ月契約の前払い」で決めてしまいました。（タイ人価格で）中心地からは少し離れていますが、そこはそれは、超豪華ビレッジ内の一角です。セキュリティを通ると「ここ本当にバンコクなの？」と、まさしく”南国のリゾート”と言っても過言ではありません。ビレッジの中心にはクラブハウス、ジム、サウナ、プール、それに公園が延々と続きそれを取囲むように超高級、高級、中級？かな、の順に100軒以上の住宅が並んでいます。もちろん、私たちは中級クラスの住宅です。3ベッド1リビング（2キッチン・シャワー・トイレ・洗面）約100㎡位でしょうか？買い物などは乗合シーロヤソンテウ（5B）、バイクタクシー（10B）、タクシー（50～60B）等のどれかで、大型スーパーのシーコン、カパー、ロータスや市場（肉、魚、野菜、果物、日用雑貨品と何でもある）にっています。路線バスやBTSは主に中心街に行くときに利用しています。残念ながら徒歩でいけるスーパーは無し。また、ハイソな住宅？ゆえか敷地内にはコンビニ、食堂、クリーニング等も一切無し。徒歩で7分くらいの所にセブンイレブンやタイ食堂、屋台があるのでちょっとした買い物やタイラーメン（20B～25B）を食べに行くのがせきのやまです。まあ、これも「体のためにはいいか」と思って諦めています。そうそう都合のいいことばかりではありません。

引き続き、健康維持のためにサウナやプールも今まで以上に利用しています。また、ビレッジ内の道路は清掃が行き届いているので、ジョギングや散歩にはもってこいです。そのせいか、ジムを利用する人はあまり見かけません。それと、こちらに来てからシニアのゴルフサークルに入り、ゴルフを大いにエンジョイしています。11月は何と、7回もラウンドしました。朝夕めっきり涼しくなり絶好のゴルフシーズンに突入です。午前中にホールアウトしてシャワーを浴び、スッキリした後、タイ料理を皆でつつきながらのビールの何と美味

いこと、そして帰宅後のマッサージと、まさにリタイア族の醍醐味を思う存分味わっています。この時ほど、「早く辞めてきてヨカッタ～」という思いが心の底から湧き上がってきます。

一方、妻の方はタイ人オーナー（これがすごくいい人）が経営する美容院とマッサージ店で、フェイスイエステ（1H300B）やフット・全身マッサージ（2H200B）が、すごく安いので週1回くらいのペースで楽しんでいる様です。この辺まで来ると日本人はほとんどいないので、チップも小額で喜んでくれます。都心に比べると何でも安いです。バンコクでロングステイをお考えの方は、「一考有りかな～」と思っています。

次に、体験談や余談をまた、少し述べてみます。

「映画・CM」またまた、タイのVCD映画とCMに出ました。内容はパタヤを舞台にしたイタリアマフィアと日本ヤクザの縄張り争いの映画です。役柄は地方ヤクザの親分です。パタヤで成功した日本人ヤクザのパーティに招待され、プールサイドで大いに飲んで盛り上がる、という設定です。本物のブランディでの乾杯シーンを10数回もやったのでかなり酔いました。主役のO氏はタイ語のセリフを忘れてしまい、「NGの連続」というオマケまであり本当に面白かったです。敷地面積3000坪超、でっかいプール、車庫にはベンツやBMW等10台、それに部屋数が20以上もある超豪華な家を借り切ったの撮影でした（中華系の金持ちタイ人はすごい）。

もう一つは、化粧品のCMです。役柄はかなり偉いお坊さん役です。ひどいニキビで悩んでいる娘を、何とか「綺麗にしてやろう」と、やったことの無いお経を読んだり念じたり、結構たいへんでした。地方のナコンナヨック（バンコクから1時間半）というところで2泊3日のロケでした。湖に「巖島神社」を想定したものを、筏を組んで浮かべたりして、総勢100人からのすごく大掛かりな撮影でした。神仏混同の何でもありでした。本当に、「マイペンライ」です。その後、私は日本に一時帰国していたのでCMは見えていません。妻は2度ほど見たそうです。

「ローイクラトン」この灯籠流しのお祭りは、タイでは水を讃える儀式として、庶民の罪滅ぼし、釈迦がインドの川辺に残したとされる仏足跡に表す崇拝、死者への届け物を流す先祖供養など、仏教的要素が加わった儀式だそうです。私たちも、オーナーの娘さんで名前はエン（バンコク大学4年）に誘われて、この近辺では一番大きな寺附



「ワット・ジェイ？」のローイクラトンに参加しました。エン手作りの灯籠（バナナの木の台座にバナナの葉やフルーツ、花、線香、ロウソクで綺麗に飾り付けた物）を川面にそっと浮かべました。何十個もの灯籠のロウソクの灯りが川面に反射し、ゆらゆら流れていく様はとても幻想的で綺麗でした。さらに、大小様々な仏像に、「自分の悪い箇所が治るように」と願いを込めて、妻共々、夢中で金箔を貼り付けました。そのあとにやったガラガラボン（おみくじみたいなもの）では、私が日本という大吉、妻は凶でした。「日ごろの行ないからすれば逆のはずなのに!？」と妻が呟いていました。それにしても、この近辺のタイ人が全員集合したのか?と思えるくらい、もの凄い“人人人”の波でした。タイ人の信仰心の強さにあらためて驚愕させられました。

「妻の一言3」インターに通う息子を毎朝5時30分に起こし、それからの時間が今のところ私の仕事だと思い、楽しませてもらいながらの毎日です。献立を考えながらこちらの食材で、「何を作ろうかな?」とこれも楽しみの一つです。楽しみは毎日毎日の繰り返して小さいなことでも日本とは本当に違いを感じながらもバンコク生活をエンジョイしている今日この頃です。

「息子の一言」普通の日本の中学校から英語で授業を行う「インターナショナルスクール」に入学した時は期待と不安で一杯でした。入学から4ヶ月以上が過ぎた今では、すっかり慣れることができました。英語での授業に関しては日本であらかじめ勉強をしていた甲斐があつて、なんとかついていくことができています。（この部分を両親が読んだらちょっと納得しないかもしれませんが?）日本の中学校での英語の知識はそこそ役にとっていると思います。最近思ったことは、日本で蓄えて弄んでいた知識（単語）の有効的な使い方を「ようやく覚えてきたかな〜」という具合です。ということでもし、「インターに入りたい」という方が読んでいましたら英語だけで十分なので、その勉強しておくことをお勧めします。（日本史は役に立ちません）

「最後に・・・」バンコクでのロングステイをお考えの方に“アドバイス”!!。ほとんどの方が、都心や日本人が多く住む所、BTSスクンビット沿線（徒歩圏内）等を希望すると思います。たしかに、日本人御用達のフジスーパーや高級デパートのエンボリアムもあり、利便性の点からも申し分ないでしょう。会社丸抱えの駐在

さんや高齢の年金生活者等、資金が十分ある人にはいいと思います。しかし、私たちのように早期退職し、年金を貰えるようになるまで、退職金や蓄え等で生活する人にはあまりお勧めできません。なぜなら、居住物件がバカ高いからです。都心から車で30分も走れば同等の物件が半額以下だと思います。以前住んでいたコンドもBTSトンロー駅からは5キロくらい離れていました。バンコクの事情が全く分からない状態でしたから、ここより安くていいところは無いと思っていました。でも、転居を余儀なくされ実際に生活してみると、環境は大きく変わったのですが利便性等は、何ら変わりありません。逆に空気がきれいな分、得した様な気分です。幹線道路は5~10分間隔で乗合バスがバンバン走っていますし、路地に至っては乗合シーロヤソンテウがひっきりなしに走っています。これらの乗り物を上手く利用すれば、バンコク都内であれば何処に住もうと大して変わりはないと思います。そして、バンコクは何処に住んでもエネルギーで活気に溢れ毎日が縁日の様です。

言葉の問題（英単語、タイ単語、ジェスチャーで十部）や治安（日本とさほど変わらないと思う）の問題とかで、まだ踏ん切りがつかないでいる会員の皆さん、ほんの少しの**勇気と決断**だけです。バラ色?かどうかはその人次第だと思いますが、海外ロングステイを是非、実現させてみてください。では、1日も早くその日が来ます様に! サワディカップ（2004年12月）

## NPO法人資格取得5周年にあたり

ペナン支部長 NO. 18 木村 義光

私と「南国暮らしの会」との出会いは約9年前にさかのぼります。

1995年頃のことで、私が53歳の時、兼ねてより60歳までに、「第二の人生」の南国の適地を探し「海のそば」でゆったりと暮らす計画を立てて、年数回、飛行機で7時間の範囲の「南の楽園の島」を探していました。

その頃、「南国暮らし夢の会」の発足を知り、私達夫婦と同じ考えを持った仲間との出会いに感激し入会した訳です。それから会は「南国暮らしの会」と改められさらにその後、東京都にNPO法人として認可され、大きく飛躍しました。

私達夫婦もペナン島を好きになり、リタイヤビザを取得、コンドミニアムを買い、ロングステイをはじめました。その頃はまだ「南国暮らしの会員」はペナン島には私達だけでしたので能力がないにも関わらず、私が初代ペナン島支部長に指名されたわけです。

海外ロングステイブームの到来、そして、会執行部の絶え間ない努力に支えられて、「NPO法人南国暮らしの会」は今や会員数800を越える大きな組織に成長し、また言うまでもなく、「南国暮らしの会」の運営は、本部、支部を問わず、会員

の無償の労力と知恵の寄付で成り立っています。

海外暮らしを目指す会員の皆様は過去、現在を通じ多くの会員たちのボランティアの結果、得られた情報やサポートを享受しているのです。

最近、ペナン島も有数のロングステイの適地として、有名になり、約100組のリタイヤ夫婦が住む街になりました。ペナン支部も来年早々には12組24名になろうとしています。

私達夫婦は「南国暮らしの会」に入会させて頂き、ペナン島に暮らすようになって、たくさんの素晴らしい友達が出来ました。

日本に限らず、世界中に友達が出来たのです。

会に入らず、今も山梨で暮らして居たなら決して得られなかった事でしょう。

リタイヤ後の人生の選択はいくつかあります。

ロングステイを海外に求めるのも選択肢の一つでしょう。

この視点から多くの会員の皆様に、私達の「ペナン島での生活」を見て頂きたいと考えております。

私達夫婦は会員の方々のペナン島訪問を楽しみにしています。そこには、仲間としての素敵な出会いがあるかも知れないからです。

## NPOとして5周年おめでとうございます

パース支部長 NO. 110 藤本 靖人

あれからもう5年も経ったのですね。確か申請したのは5～6月だったと記憶しています。当時親しかった都庁幹部にどうなっているのか調べてもらったところ、後日書類さえ間違っていなければ大丈夫と思うよとのコメントされました。返す刀でこれって旅行代理店とどう違うのと、やられてしまいました。

兎にも角にも11月に許可され、新生NPO法人南国暮らしの会が発足したのです。1～2年は

モタモタしたものの、この3年間で急成長し、今や会員数500名を越える団体に成長した事は世の中のニーズに合っていたということになり、今後もどんどん成長していくでしょうし、また成長させなければなりませんね。都庁の幹部が言った旅行代理店紛いのNPOではなく世界中にネットワークを広げたロングステイ(LS)及び海外生活情報の発信基地としての役割を演じていって欲しいものです。そのために我々海外在住者の役割は大き

いのですが、ともすれば負担だけが目立ち嫌気して退会されていく方も目立って来たのではと危惧しております。この問題は何処まで行っても残りますが、訪問される方々のモラルに集約されると思っています。極端な話、パースの人にシドニーのことを教えて言われても困ってしまうのです。

私が海外で暮らそうと考えたのは、バブル崩壊で計画していた生活が難しくなったこともありですが、最大の理由はサラリーマン時代を引きずった第二の人生を避けたかったことです。英語圏であること条件に4年間かけて移住先を探し、何となく女房も同意してくれたパースを選びました。移住しての最大の効用はすべて移動が車ということもあり、買い物など殆ど夫婦一緒に行動するようになった事です。今では女房も同時期に移住されてきた奥さんと週2回（2回で約2000円）のゴルフを楽しむようになりました。釣りも積極的に楽しんでいきます（アジ、ニシン、コダイ、キスなど）。

リタイアメントととして海外に在住していると、インターネットを活用した健康管理システムの運用を（日本での過疎地の運用システムの応用）してもらいたいですね。またこの地で動きは始めている日本人の日本人のための在宅介護システムが十分稼動することが望まれます。さらに日本の介護保険の適用が可能になれば嬉しい限りです。フィ

リピンに徳州会病院が1000室の介護施設を建設するとの情報がありますが、稼動しだすと、介護保険の適用が脚光を浴びるのではと期待しています。

パースの12月は夏です。先日も予報37度でしたので、カーテンを締め、午後2～3時の暑さに備えておりましたが、クーラーも使わず扇風機も使わなかったのが、今日の気温はと思い、テレビで確認したところ41度でした。昔流に言えばアッと驚く為五郎ですね。因みに夕方よりシーブリーズが吹きだし20度近辺まで下がり肌寒いほどでした。巷ではクリスマスセールの真っ只中間間売り上げの3分の1はこの12月だそうです。最近では電飾で飾る家庭が増えています。ある地域全体でクリスマスデコレーションを競っており最優秀作品には電力会社より、1年分の電気代無料という特典があるそうです。

オーストラリアの景気はずっと右肩上がりです。4%前後の成長を維持しています。したがって年5%前後の金利が付いています。しかしインフレ率も4%程度ありますから、あまり良いと思われても困ります。

以上これからも南国暮らしの会の発展を皆さんと共に支えて行こうと思っています。これからも宜しく。

## 雲の上の近代都市、バギオ

バギオ支部長 NO. 227 齋木 一

会員NO 227 バギオ支部 齋木 一です。初めてのご挨拶になる方もいらっしゃると思いますが、よろしくお祈りします。

2005年 明けましておめでとう御座います。この一年が会員の方々に素晴らしい年となります様に遠くフィリピンのバギオよりお祈り申し上げます。

バギオ支部は、昨年5月に新しく支部として認めて頂いた新しい支部です。フィリピンのルソン島北部山岳地帯の中心都市、バギオ市にあります。バギオ市は海拔1500m前後の高地に広がる高

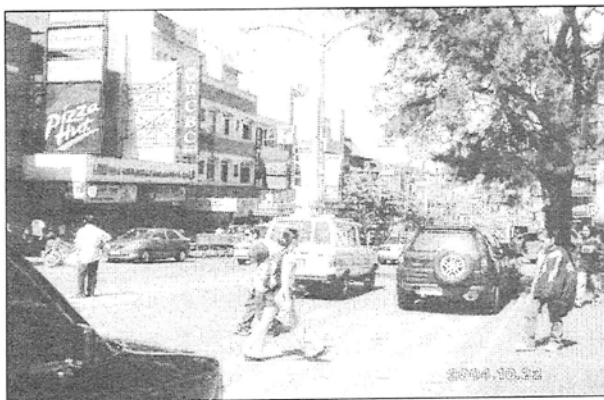
原都市です。1905年に当時フィリピンを統治していた米国が夏場のマニラの酷暑を避けて行政機能を夏の間バギオに移す為に全く新しく町作りから始めました。今年で丁度100年を迎えます。その為に独立後も尊称として今でも「サマーキャピタル」と呼ばれています。都市建設の為に作られた登山自動車道の建設には多くの日本人労働者も従事し、難関工事は日本人労働者の献身的努力無しには成し得なかつたろうと言われていました。最大2600名を数えたその日本人労働者が最初の日本からの移民となり、工事終了後もバギオに

残る者も多く、バギオの町の発展に大きく貢献しました。太平洋戦争開戦時には千有余を数え、バギオの中心地セッション通りの両側の商店は殆どが日本人の経営だったと言われています。

太平洋戦争の末期には、フィリピンを占領していた日本軍の司令部がマニラからバギオに移り、「マレーの虎」として有名な山下将軍の日本軍がバギオやその後方の山岳地帯で終戦迄抗戦していました。その結果、約4ヶ月続いたバギオ攻防戦で、バギオは一時完全な廃墟と化しました。バギオの日本人もバギオを離れ、山岳地帯に避難し、終戦迄に多くの方が犠牲になりました。生き残った方も戦後日本に強制送還され、繁栄を謳歌していた日本人社会は一挙に崩壊しました。1991年に大地震の被害を受けた事もあり、現在でもこの町に住む日本人は50名以下だろうと推測しています。

しかし、1903年の日本人入植以来現地の女性と結婚した人も多く、バギオ周辺に居住する日系人は6千人以上を数え6世の代に迄なっています。会の友好団体「バギオ日本人会」ばかりで無く、この日系人組織「北ルソン比日友好協会」や、慈善事業を営む「北ルソン比日基金」がバギオ支部を側面から援助してくれています。基金では年間200名以上の大学生、高校生に学資の支援をしています。

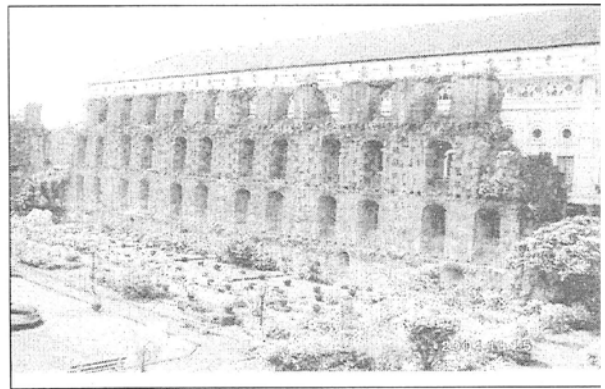
バギオはまたの名を「パインシティ」とも呼ばれる様に、町のそこそこに松の大木が林を成し、日本人達からフィリピンの軽井沢とも呼ばれています。町のあちらこちらにある公園は年中花が咲き誇り、特にバラは「バギオローズ」として有名です。緑一面のバギオはフィリピン人には特別の場所で、その緑は「バギオグリーン」と名付けられ、塗料として特に好まれる色にすらなっています。



す。日々の生活も大変なこの国の人達にとっては一生の間に一度は行って見たい夢の「雲の上の町」

です。

350年以上スペインに統治されていたこの国の古い都市は何処と無く南欧的な感じがしますが、バギオは米国が計画的に町づくりをした為に、町も建築物も米国のコロニアルスタイルの影響を色濃く受けて近代的な感じすらします。但し、バギオは観光地ではありません。25万人前後が居住する生活都市です。その規模は日本の中部山岳地



帯への玄関口の都市長野県松本市と同等です。100年の歴史しか無く、戦争や地震の被害も受けているので、歴史的建造物はあまりありません。観光しようと思えば、半日で充分です。

バギオは住んで見て、始めてその良さが判る町です。1年中を通じて日本の初夏の様な気温で、南国でありながら夏の暑さとは無縁です。26度を上回る日は殆どありません。反面高地とは言え流石に南国ですから、冬の寒さを感じる事もあります。1年の大半が16度から26度という快適な気温です。その1年は大別すると雨期(6月~10月)と乾期(11月~5月)に分かれます。特に12月から4月迄の間は殆ど雨は降りません。雨期は台風の影響を受ける事も多く、マニラからの空路が欠航する事もあるので注意が必要です。

日本人が農業指導を続けているので、高原野菜を中心に野菜類は年中豊富で、安価です。レタス、ブロッコリー、キャベツは新鮮で、サツマイモや、牛蒡迄売っています。高原都市ですが、海から1時間半の近距離なので新鮮な魚も入手出来ます。最近大型のモールがオープンしたので日本の食材も品揃えが豊富になりました。バギオでは、近代的な生活レベルが維持できます。

都市とは言え、規模が小さく、その割りにフィリピンでは珍しくタクシーが足として使えるので、車なしでも十分にやって行けます。家賃もそれ程では無いので、1ヶ月の生活費は多分東南アジア地域では安く出来る都市と言えるでしょう。

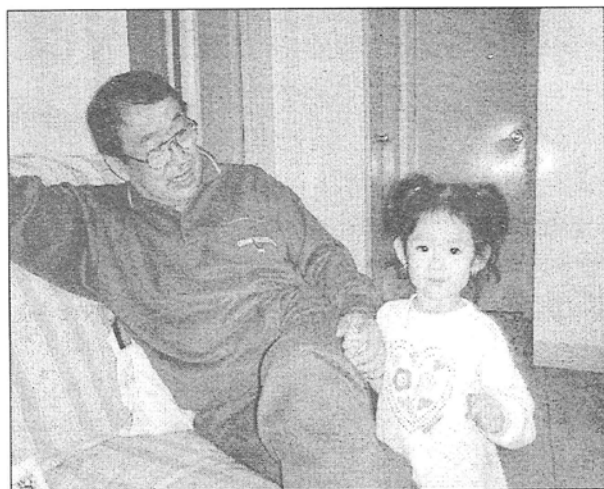
バギオ支部は、私と、会友の山田さんのたった二人の支部です。発足したとは言え他の先輩支部の活動には及びもしません。この1年お陰様で多くの会員にお出で頂きましたが、ご満足して頂くにはまだ時間が掛る事も実感しました。しかし、トは小なりに頑張れる事も感じました。実り多い1年でした。私自身バギオに住んではいけないので、会友の山田さんを除けば定住会員はゼロの支部です。緊急時の対応への問題もあります。会友とは言え山田さんご夫妻のご協力に寄る所大です。しかし、私の住む隣の州、パンガシナンにも会員の方々が来られる様になりました。今年は支部の活動拠点をパンガシナンにも伸ばそうと考えています。LSの適地にはなり得ませんが、バギオでLSをする場合の生活に変化をつけられる所ではあります。南シナ海に面するラウニオン州も常夏を楽しむ場所です。少し足を伸ばせば古いスペイン統治時代の街並みを未だに残すビガンのあるサウスイロコス、ノースイロコスも射程距離です。

フィリピンについて、日本国内ではあまり芳しくない話が多いと私も日本にいる時は思っていました。しかし、住んで見ると、やはり「百聞は一見にしかず」でした。私がお案内する日本からの見察旅行の方々が異句同音に言われるのは、昔の日本がここに残っている、自分が子供時代に見た景色がここにある、と、言う事です。今の日本ではもうあまり見る事の出来なくなった、他人への親切さ、子供達の明るさ、屈託のなさ、そして静かな田舎の佇まいが、この国の至る所に残っています。日本にいると物の豊かさの影に隠れてしまっている自然の素朴さと人の心の豊かさがこの国にはあります。バギオやパンガシナンばかりで無く、この国の地方に行けば何処にでもあります。この国の欠点を論うのでは無く、LS適地の旅では、是非この国の良さを探し出し、味わって下さい。

そして、最期に一つだけ会員の皆さんにお願いがあります。それは、私達海外在住の会員が何故会に留まっているかを考えて頂きたいのです。例えば、バギオの会友の山田さんは、バギオにLSをする会員が増えて副会長をされている「バギオ日本人会」の会員になって頂く事を楽しみに手伝って下さっています。私は日本から離れ、少なくなってしまう日本人の新しい友人を見つける楽しみの為に参加しています。そう言う気持ちで会員の皆さんと接している事を知っていて下さい。そして、LS視察の旅がお互いのこれからの人生にプラスとなる様にしたいものです。

会はこれからどんどん発展して行くと思います。会員の海外居住者も増えて行く事でしょう。海外に居住する事によって会員としての興味を失わず、また海外にいても会の必要性を実感できる、と言う会に今後もして行って頂きたいと願います。

2005年が、また多くの新しい、素晴らしい出会いを私達に与えてくれるように希望します。そして、会員の方々がご自身の夢に向かって一歩一歩着実に前進する年となるように心から祈念します。



## 友好団体の掲示板 (17・新)

### ☆ (財) ロングステイ財団

心のゆとりと豊かさを実感させる「ロングステイ」。ロングステイ財団は、ロングステイメンバーズクラブの会員を募集しています。詳しくは下記へお問い合わせ下さい。

Tel : 03-3505-4477. Fax: 03-3505-4433

E-mail : info@longstay.or.jp

URL ; http://www.longstay.or.jp/

東京都港区東麻布1-28-2 (第六文成ビル2階)

・ 月～金 9:30～17:00 ・ (祝日休)

・ 責任者 : 事務局長 神山修一

## 新春・5周年記念号に寄せて

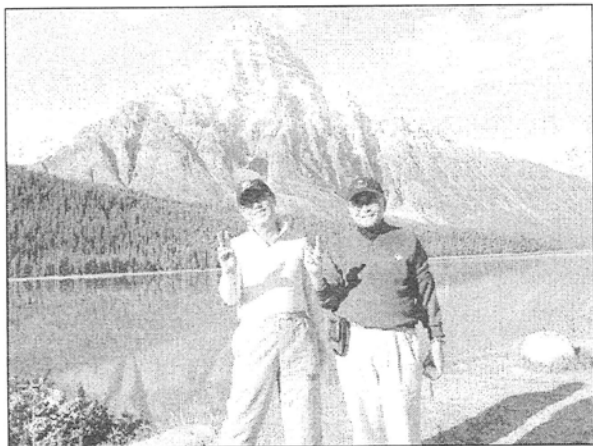
チェンマイ支部長 NO. 558 伊沢 豊

まずはタイ語でご挨拶；

“サワデー ピー マーイ！（新年おめでとう  
ございます）”、そしてチェンマイ弁で

“チャローン クロップロープ ハー ピー チャー  
オ！（5周年のお祝いを申し上げます）”

5周年・・・つまり5年前といえば、奇しくも私  
がチェンマイでのロングステイライフをスタート  
させた年じゃありませんか。感激やなあ  
もう・・・。



「ロングステイ」なんて言葉からしても、私は  
もともと欧米志向でしたわね。

その地を求めヨーロッパを中心に、長い年月をか  
け各地をさまよい歩き、辿り着いたのが、なんと  
それまでは思いもしなかったこんな所（誰もがバ  
タくさいと思っている）タイの、それもはるか北  
部のチェンマイになろうとは。いつぞやのメルマ  
ガでも書きましたが、私はこのタイを含め「ア  
ジア」はまったく眼中にない筈だったのに・・・。

「出会い」ちゅうのは異なるもんですなあ・・・。  
いえね、5年前、2000年の6月（当時フィリ  
ピンはマニラの郊外で半年住んでいた）中旬のこ  
と、たまたま観光で当地にやってきたとき、チェ  
ンマイはナイトバザールのとあるコンビに立ち寄っ  
た際、レジでバイトしていたある女子学生に声を  
かけられたのが、私の人生ならぬ余生行路を決定  
するきっかけになろうとは・・・。

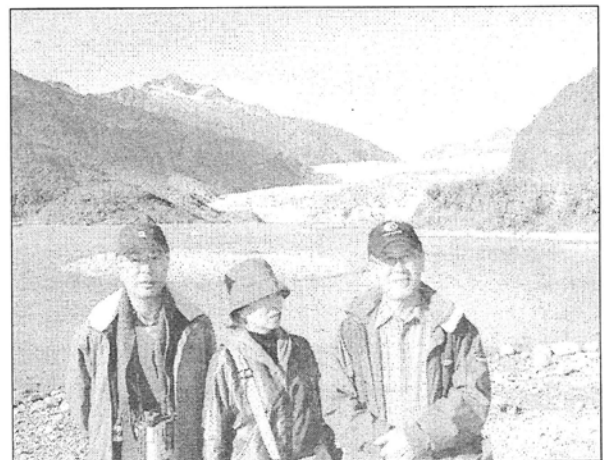
この女の子は地元チェンマイ大の学生であること  
がわかったのですが、要するに、自分達で作って

いる日本語サークルの先生になってくれないか、  
とのこと。（私は元高校・英語教諭で、かつ日本  
語指導資格も取ってあったので）当然のことなが  
らこの申し出を快諾。それでいったんマニラに戻  
り、全てを引き払ってから再び戻ってきて、この  
学生らとのお付き合いが始まったのであります。

思えばほんまにエエ学生たちでしたなあ。休日  
などには連中私の部屋に遊びに来て女の子たちは  
私の下着まで洗濯、男の子達はどこからか車を借  
りてきて、私をドライブに連れ歩きながらこのタイ  
社会の表裏を説明してくれ、お陰でこの社会の  
生活文化に深く触れることができました。なんせ  
車であちこち引き回してくれるので、チェンマイ  
内外の地理に詳しくなったのは思わぬ大きな収穫  
だったと思います。

お陰で私が自分の車に乗るようになってからと  
いうもの、チェンマイ内外をわが庭のごとくスイ  
スイ走りまわっております。今ではタクシーの運  
ちゃんも出来そう。

ということでこの「記念号」発行を機会に、私  
が当地支部長を拝命していることでもあり、あら  
ためて此処 “チェンマイ” を見詰め直してみ



たいと思うのであります。

☆ チェンマイのいいところ

- ①南の国だけあって年中温暖で、気候が高齢者に  
たいへんやさしい。
- ②緑豊かなガーデンシティでしかも年中花が絶えず、  
2月上旬には華麗な「花祭り」がある。

- ③日本と同じ仏教国だが、宗派に分かれていない単一宗教で、国民の信仰心が深い。
- ④京都のように古都だけあって寺院が多く、年中どこかで伝統行事が行われている。
- ⑤チェンマイはローカルであるのに、都会的なもの（ホテル・大型スーパー・デパート・劇場・レストラン・大学・病院など）が充足しており、街の雰囲気があか抜けしている。
- ⑥チェンマイをベースにすると、車で或いは飛行機で海のあるタイ南部はもとより近隣諸国を簡単に訪れることができる。
- ⑦空港が市街地に隣接しているため、市中心部からでも車で20分とかからない。
- ⑧病院が多く医療レベルは高いようで、日本語通訳を常置している病院も幾つかあるためいざという時安心。
- ⑨農業大国・果物王国のため食べ物が非常に安く、生活しやすい。
- ⑩地元の人たちはおおむね日本人びいきで「心やさしい」。(タイ語で「チャイデイ」)

★チェンマイのよくないところ

- ①ホテル数は十分なのだが、ロングステイヤー向きのマンションが極端に品不足。
- ②戸建はわれわれ外国人は買えないのだが、さりとて数少ない賃貸などに住むと日本と違って建築工法がずさんなため雨漏り等メンテナンスに振り回される。
- ③近年の異常な車の増加で、大気汚染が心配されている。
- ④道路は車優先で歩行者用信号が極端に少なく、高齢者の道路横断は命がけ。
- ⑤側道の歩道は段差があるのがほとんどで、しかも暗渠がぼっかり開いていたりして危険この上ないが、当局はなかなか修繕しようとしなない。
- ⑥歩道のど真ん中に交通標識用のポールが立っていたり電話ボックスがふさいでいたりして為政者の無神経ぶりにあきれれる。
- ⑦いかに台風のない国だとはいえ、電話線がだらしなく何本も垂れ下がっており見苦しい。
- ⑧雨季にちょっと雨量が多いと市内あちこちで大洪水、大渋滞が起これる所でエンコ車が出る。
- ⑨時たま停電があり、マンションのエレベーターが止まるため上階の人はたいへん。
- ⑩交通渋滞や市民の迷惑などおかまいなしで、何ヶ月間も平気で大工事をする。・・・目下市街地を取り巻くハイウェイの数箇所で、立体交差工事を

やってるので朝夕は大渋滞。

ことほど左様に良くない点も多いチェンマイだが、どっこい生きてるぜ・・・われわれロングステイヤーはまったく気にしてない。それどころか、私などは当地にべた惚れで「桃源郷」とすら思っているほど。きっと自分はアホなんやと思うてます。「完」

友好団体の掲示板 (17・新)

☆チェンマイ ロングステイライフの会【CLLクラブ】

- ・ロングステイの為の案内、相談及び入会受付、「南の会」の会員も多数入会されています。なお事務所では会役員が対応しております。
- ・入会資格は会員の推薦又は事務所での面接によります。
- ・主な催し：1ヶ月2回の例会、週2回のゴルフ例会(1ヶ月1回コンペ)、ソロバン/パッチワーク/ブリッジ/料理/ダンス教室等
- ・会報：毎月発行(現在カラー版4ページ)
- ・その他：図書(蔵書2500冊)室にはPCも常設。
- ・事務所：タイ日センター2階《軽食堂エビス内に昇降階段》(チェンマイ プラザ ホテルの左隣)
- ・電話：053-81-9270 ・会員数：約100名
- ・事務所開設日時：月～金14時～16時
- ・入会金：無料、・年会費：600B(男女問わず)但し家族会員は480B。
- ・年度途中の入会者は、その月から月割り計算

「光陰矢の如し」と申しますが、何と月日の流れるのの早い事。特に歳を重ねると其の感を深くします。

第2の人生、如何に生きべきか、？、色々右顧左眄の追跡中、街の図書館が私の情報源で、探し当てた本の中から、「ロングステイ財団」や、元会長竹内司様主導の「南国暮らし夢の会」のグループを発見した時、これこそが吾が行く道だ。と強く意識したものでした。当時、事務局長は酒匂景輝様、思いのたけをメンメンと綴った申込書を送ったのが、遂昨日の事のように思い出されます。確か、平成9年の終わりから10年の始め頃だと記憶して居ます。只今御活躍の東京本部の数名の方々の並々ならぬ御努力の結晶が、NO800台を越える会員を擁する大世帯に発展した成果だと強く意識して居ります。その辺のところには現副理事長の高澤弘晃様が、本年会報春季号に「創設時の思い出」と題しまして詳しく述べて居られる事でもお察し頂けると思います。一卓越なる定款の作成一、一健全財政の構築一、一着実なる4季毎の会報発送一、一NPO法人の設立一、一会員拡大の発展的方向一。

どれ一つ撰っても、万全なる体制で歩んで来られた現理事、執行部皆様の尊い犠牲の上に成り立っている事を痛感すると共に、識見豊かな人材の宝庫こそは、我々「南国暮らしの会」の存在理由だと胸を張って言えるのではないのでしょうか。

さて、此处で、酒匂理事長の御要望もアリ、会の展望を観るに当たって、甚だ恐縮ではありますが、腹藏無い私の愚見を披露させて、会員皆様の御批判を仰ぎたい我儘をお許し下さい。

新春号に於ける法人設立5周年記念を飾る慶賀の日でもありますので、先ず今後の会の方向と対策については、常にフロンティア、トライ精神を持ち続け、大いなるロマン、夢を持つ事、其の事が我々シニアにとって医学的にも生理的にも若返へらせるフレッシュで新鮮な会で有りたい。

① 会員獲得とネットの拡大に依る予算  
年々増加して喜ばしい事ですが、第一目標としては差し当たり千人を目指す。次に二百・三百・四百と目指して一応のけりを倍数の二千人を射程の中に入れること。皮算用で申し訳無いが東京本部

に二流地でも結構、事務所を置く。最小スタッフで運営する。人件費は最低から発足する。かつて私は税理士に相談したが、ボランティアと雖も正式計上すれば問題なしと聴いた。社会的に認知されたNPO法人は全国で一万二千種程で三千種の特定特殊法人に認定されれば税法上の恩典は大きい。

② 会員の途中解約の問題点は、大いに研究課題として今後の運営の俎上に乗せ、対策を練る事が向上発展の足掛かりになると考えます。

③ 現理事で八面六臂の活躍をされている、宮崎様、高澤様は現実的な組織運営のベテランと申しても過言ではありません。今後「南国暮らしの会」の大切な人材ですし、楔でもあります。決して単なるお世辞ではありません。

④ 外国を外地と申し、日本を内地と称する昔語りです。内地の各支部長さん方との密接な交流で（その為には交通費が多分に消費する事は当然の理ですが）地場を強固なものに熟成する必要があります。

⑤ 我が「南国暮らしの会」は知的財産が豊富です。東大出を筆頭に、外地経験豊富な商社マン、医者、企業家、税理士、IT技術者、大学講師その他多士済々です。錚錚たるメンバーの集まりだと信じて居ります。依ってベストの知恵を結集し、会と云う石（一寸失礼ですが）を磨き上げ、存在意識足らしめん事請い願う者であります。

⑥ 最後に一言、残念至極の思い入れがあります。人格温厚、高い識見と深い教養の持主でいらっしやる池田会長、酒匂理事長様が如何ですか？、此の会の最初の発起人でもあり、発案者、会創設者、母体と称してもふさわしい元会長竹内司様を脱会からお引き止めしなかったのか？、私には大人げ無い、尻の穴の細い所作としかは受取れ無いのです。成る程、フィリピンオンリー、我田引水のセクト主義だとは観察出来るのですが、発想は地球枠、グローバリゼーションの見地からすれば単に冒険ダン吉村構想者として、失敗すれど、それは時の運、戦略的は方法論の稚拙から来る金銭的な破綻が、仮に有ったとしても同調者に彼を見る目が無かつただけの事。私にも、誘いの口で御本人が私の自宅迄参りましたが、放任した経過があります



が、未開発で貧民国相手の交渉では、挫折は当然の成り行き、許すべきが大人の芸だと申せましょう。結論としては、彼を外地支部総責任者名誉会

長的扱い方として、円満なる解決が出来なかったものかと、搔痒隔靴の感拭えません。

## 5周年を迎え、支部長の立場から

東海支部長 NO. 487 横井 保夫

NPO南国暮らしの会創立5周年、おめでとうございます。

東海支部が立ち上がったのは南国暮らしの会創立より3年近くを過ぎた2002年5月です。其の頃の東海支部の会員数は10人足らずでしたが、この2年の間に定例会、サロン会、懇親会、数々の体験ツアーを通じ、南国暮らしを目指すという共同目的を持ったもの同士の楽しい仲間作りをしてきました。現在東海支部会員数は70名を越すほどに膨らみました。

東海支部がここまで無事にやってこられたのは、本部役員、東海支部役員ならびに会員の皆様のご支援ご協力の賜物であり、心より感謝申し上げます。

そこで、私が日ごろ思っている事の中から、2つのテーマに絞って書いてみました。

ひとつは 現地語を体得するひとつの方法  
もうひとつは 金銭感覚の違いについてです。

(1) テレマカシ バグース (素敵な有難う) から現地の人達に入っていた経験。

ロングステイの魅力はもちろん個人個人で捕らえ方が違っていますが、一般的には気候が快適で健康に良い、生活コストが安いので日本より豊かな物質生活が可能(女中さん運転手まで使った生活が場所によっては可能)、また趣味のゴルフやダイビングなどが存分に楽しめる、などがあげられますが、最も楽しい事は、その土地の人達と仲良くお付き合いが出来ることだと考えます。言葉の壁があって、どうしても日本人ばかりが集まって付き合うといったスタイルになりがちです。身近なところから周りの人達に自分を売り込むぐらいの気概を持って入ってゆければよいと思います。私の例で申し訳ありませんが、初めてインドネシアに行ったとき、まったくインドネシア語のイ

字も知らなかったのですが、ジャカルタについて其の日に教えてもらったのが“テレマカシ“(有難う)と”バグース”(良い、素敵な、素晴らしい)の2つのインドネシア語でした。その日から出会うインドネシアの人に“テレマカシ バグース“をオオムのごとくにその後も繰り返していたところ、周りのインドネシア人や、会社や取引先のインドネシアの人達が、“変な外人が来たぞ“と思ったのでしょ、ニコニコして近寄ってきました。彼



らが何を言っているのかさっぱり分らなかったのですが、何か話しかけられたら相変わらず”テレマカシ バグース“を繰り返すばかりでした。いつの間にか私のニックネームは“ミスターテレマカシバグース”(素敵な有難うさん)になっていました。

それ以降、彼らと気楽な付き合いが始まりました、陽気で冗談好きで、歌と踊りの好きなインドネシアの人達に囲まれてどんどんインドネシア語が身につけて行ったように感じました。おまけにインドネシアの歌まで身についたようです。其の分、私の日本語がおかしくなってゆきました、イ

インドネシアから帰国して3年たった今でも、日本の喫茶店で“コピパナスサト”（ホットコーヒー1杯）が出てしまいます。

皆様もぜひこの方法もお試しになったらいかがでしょう。少なくともお金払って行く会話学校よりは早く身につきます。お金持ちの日本人は東南ア



ジアではどうしても上に立って現地人を見てしまいがちですが、上から見たりせず、自分と相手の視線を同じ高さにする事です。仲間意識を持つことです。相手が誰であれ(どんな階層の人であれ、どんな職業の人であれ)、こちらから声をかければ、必ず声をかけてくれるようになります。タイ語でもヒンズー語でも英語までも同じようなアプローチで入ってゆきました。タイ語の世界、インド人の世界、英語の世界にこちらから飛び込んでゆくことです。多分、しゃべるだけなら中国語でもフランス語でもドイツ語でも同じ方法で行けるんじゃないかなと思います。

最初は何かしゃべれないのがノーマルなのです。名古屋弁は名古屋に暮らせば身につきます。

これと同じで、タイ語はタイに住めば身につきますし、マレー語はマレーシアに住めば身につきます。

人はオラン（おらん=居ない）、魚はイカン（食っていかん）、菓子はクエ（喰え）、飯はナシ（無し）、といった調子で・・・。

## (2) 日本人の金銭感覚は？

現地での買い物で、値切ることは、相手と金額を考えて友好的にしたいものです。たまに“ふっかけられた”といって店先で怒っている人を見かけます。

現地の人達に見合った物価の世界に、日本での金銭感覚で飛び込めば、たいていのものは安いと思うものです。それがロングステイの魅力のひとつ

つではありますが、少し慣れてくると現地での物価にも高い安いが分ってきます。少しでも安く買いたいのが人情です。

値切る交渉のやり取りは、現地語の練習にもなって楽しいものではありませんが、

そこにゲーム感覚で何でも値切る、そして値切った成果を自慢する人が見受けられます。

これはあまり薦められることではないと思うのですが、皆さんはどうお考えでしょうか。

値切られることは、相手から見れば自分が期待する収入を削られることなのです。東南アジアの国々は程度の差こそあれ、大体貧しい人が多いところです。大勢の家族がおなかを空かして待っているかもしれません。

そこで、値切ってよいところと、値切るべきでないところを、チェンマイを例にとって考えて見ます。

値切っても良い相手：；観光客相手のみやげ物屋（ナイトバザールなど）、にせもののブランド品屋や、金持ち中国人のお店。（ただし相手もしたたかで手ごわいが、現地語の練習にはここが一番）  
値切っては良くない相手；まじめに値段を出してくる人（金持ち日本人は現地に住まわしてもらっているものですから、現地の人よりは多少高く払っても良いというおおらかな気持ちを持ちたい）  
ソテウヤツクツクの運転手（10パーツ値切ったところで30円の違いが彼らにとっては収入半減）、現地人向けの市場（野菜、果物、肉、魚、手製のお菓子類などが無茶安いのに、金持ちの日本人がもっと安くせよと値切っているのは見ていてやめときゃいいのにと思ってしまう）、山岳民族が売っているもの（時間をかけて手で作ったものが多い）、屋台レストラン（ここで値切っている人は見たことありません）

要するに、自分と家族が生きてゆくために一生懸命働いて作ったものを売っている人たちに、ゲーム感覚で値切るのは弱いものいじめのようで、いかなものかと思ってしまう。

ではチップはどうするか、時と場合によりますが、あくまでサービスに対する感謝の気持を表すもので、相手からしつこく要求される場合は、チップをあげたい気持ちがなえてきますが、それでも常識の範囲であげるしかありません。チップが生活の糧になっている人が多いのです。（ゴルフ場のキャデイさん、マッサージをしてくれる人など）

以上は自己反省と戒めの気持ちでもあります。

## NPO法人認証5周年記念と関東支部

副理事長（関東支部長） NO. 163 宮寄 哲郎

5周年記念のお祝い申し上げるとともに関東支部（2001年設立）の歩みと将来のあり方について申し述べたいと思います。

そもそも当会が発足した最初の頃は本部主体の運営、支部でなく関東本部でした。

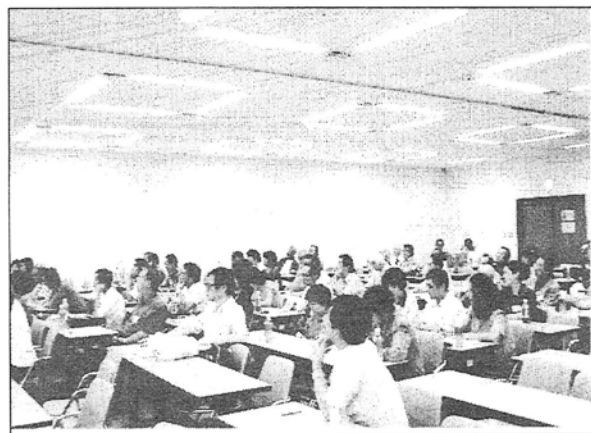
そして先ず海外にマニラ支部が設立され続き関西支部が出来、徐々に国内・海外の支部が設立されました。それまでは年4回の情報交換会と会報だけが南国の情報源でした。

そこで「出来るだけUp-to-dateな情報」と「親しい仲間作り」そして会員の定期的な懇親できる場所提供をするために関東支部では「サロン」の設立を品川の新高輪プリンスホテルJALラウンジを借受け行うこととし、第1回を2001年11月10日サロン「南の会」と名付けスタートしまし



た。参加者は当時15名でした。懇親会は有志で細々と近くの窮屈な飲み屋で行いましたが今とは隔世の感があります。その後爆発的な人数の増加により場所を現在の大崎に移し常時平均70名～80名ほどの参加者のある会に発展しました。これにより飛躍的な情報の収集と会員同士が親しくなるという大目的も達成され、会員増加にも寄与して参りました。これを追って各支部にサロンが発足大成功を収めていることはご承知の通りです。この会をベースに関東支部では仲間の集まり、「英会話教室」「囲碁クラブ」「料理教室」「パソコン教室」「南国レストラン昼食会」、関東支部メンバーを中心にフィリピンミンダナオ島ダピタン市の奨学生支援の「ダピタン会」（支援者

50名）そして仲間同士で南国を訪ねるグループ、たとえばバリ島ツアーなどなどと活動が広がって行き今日にいたっております。関東支部は会員の約半分（250名強）を占める大所帯です。した



がって連絡や受益サービスも不都合が生じ始めましたので、関東を10地区に分割、各地区責任者を選出し連絡網を作り、出来るだけ各会員にML以外の情報や連絡事項が行くように、そして退会者の防止に努めるようにしました。今後も関東支部はサロン会を中心に運営して参りますが、まだまだ東京地区に住んで居られる方で、情報交換会にもサロン会にも参加されず、直接にお顔も拝見されていない方が多勢居られます。これからはもっと地区情報網を利用しそうした方に、電話等で直接接触してなぜ会合に参加しないのか、参加したが参加をしなくなる理由等を把握して、支部の運営をよりよくするヒントとしたり、ご意見を頂いたりして折角入会されたのですから長く会に居て頂き南国暮らしを楽しむことが出来るようにお手伝いして行きたいと思っております。こうした活動は仲間を認識でき現在起こっている、そして今後も増加するであろう海外支部でのトラブル防止にも役立つものと考えます。

そのためにはこうしたコンセプトを理解し、お手伝いして頂ける方を増やして行く必要があります。しかし我々の会は皆「それぞれの南の国」探しを夢みて活動しておりますので、なかなかそういうボランティアを確保するのが難しくそれが悩ましいところです。

なぜならこれは一種の自己矛盾的行動ですから。しかしボランティアされるのを待つのでなく、それを超えてどうか自分の時間を少し割いて頂き、ボランティアして頂く働きかけをして行きたいと思えます。

さらにすでに一部地区は行ってますが、地区割り最終目的の地区毎の集会や催しを増やして行く努力をしたいと思えます。いわばご近所同士のお付き合いです。

この手段としてはいろんな趣味の会を設立したり、「ゴルフコンペ」や「自主ツアーの開催」、そしてサロンのマンネリ化を防ぐなどの方策をとって行きたいと考えます。なお支部活動に関する各種アイデアを皆さんから募集いたしますので、是非ともご提供いただくようお願い申し上げます。250名以上の会員の方々のキャリアは多方面にわたり、誠に人材豊富多くのスペシャリストが居られます。このアイデアとこのパワーを結びつけばいろんな可能性があります。何が飛び出すか夢が広がります。リタイヤー後の「南国探しの夢」と「生きがい」をお互いに求め自己実現を

目指し「人間だけに与えられた長い老後」をエンジョイしたいものです。

最後にもひとつのお願いですが、会員を増やすことの賛否の議論は別として、皆さんの周りを見渡し南国暮らしの志向のあるお友達やお知り合いを是非ともお誘いいただき仲間を増やして行きたいと思えますので常に念頭においていただければと思います。

これは身元、お人柄が確実な会員増加策と思いません。会員が増えれば増えるほど海外支部でトラブルを起こす例が最近増えております。当会の柱は海外支部の充実と現在就任されておられる支部長さん達です。他を以って代えがたい方々ばかりです。そんな方々が嫌気を起こしお止めになるような事は絶対に避けたいことです。そのためには身元、人柄が分かる会員が増えることが望ましいのは論を待たないことと思えます。

これからも関東支部が他の範となつて、頑張つて行きたいと思えますので皆さんのご協力を仰ぐ次第です。

## 5周年記念を迎えて

北海道支部長 NO. 625 工藤 俊一

本会が今年、NPO法人格5周年を迎えることができ、誠にめでたうございます。

一口に5周年といいますがこの間、この日を迎えられたのも、歴代の理事長様を初め各役員の方々の並々ならぬボランティア精神の支えがあったからばこそであります。

本会が年々組織を拡大し、会員も毎年のように増えてきたのは当然の理であります。

日本の国も科学技術の進歩により、大変便利で豊かな生活が出来るようになりました。

地球的に考えても航空機の発展や、高度情報化技術の発展の恩恵を受け、かつてのように遠いはるかな国はなくなり、どこの国へも数時間、数日で行けるようになり、今日の出来事が数分後には、どの地にいてもその状況を知ることが出来るようになりました。

半面、高齢化社会を迎え、老後の少ない年金で残された人生如何に楽しく有意義に過ごすかは、万人の考えることであろうと思えます。

そのような今日の中で「南国暮らしの会」に出会ったのは大変ラッキーでした。

南の国に憧れる私たちにとって本会は色々な情報を正確に伝えてくれます。また同じ目的を持つ人たちと共通の話題を通してどんどん親しい友人を増やしてくれます。

住んでみたい、行ってみたい国の習慣、言葉、病気、治安等々不安に思っていることが、次々と解消できることは本当にありがたいことです。無知ゆえに無用のトラブルに巻き込まれることが少しでもなくなればこんないいことはありません。感謝、感謝です。

私もこの会に入会させていただき、お陰で今ま

でまったく見ず知らずの会員さんと親しくお付き合いさせていただくことが出来喜んでおります。

只、私が入会した時には、まだ北海道支部がなく貴重な情報や会員同士の交流の為にはどこかの支部の会合か、東京まで行かなければなりません。北海道の会員の中にも毎年のように東京での情報交換会に参加していた会員もおります。そんな折、本部の熱心なお誘いもあり、ようやく北海道支部も7つの支部の一つとして2003年10月に立ち上げることが出来ました。

今年で1年経ちましたがお陰をもちまして、情報交換会等にも多数の会員の参加があり、会員の意欲の高さが感じられます。北海道は土地柄、集

まるのが大変なのですが一泊予定で札幌まで来てくれます。いつも24名位の参加ですが借りている会場が25名定員ですので、今後もっと増えたらどうしようとうれしい悲鳴を上げています。会員さんは若い人が多く、ほとんどが現職の方々です。

年々会員が増えてきている傾向にありますので、今後の活動を工夫し、出来る限り会員の要望に応じていくことが必要と思っております。

今後この「南国暮らしの会」が会の理念に基づき益々発展されることを祈念いたします。またNPO法人格5周年の準備にあたった理事長様を初め役員各位の精力的な取り組みに心から感謝しお祝いの言葉といたします。

## 東北支部近況報告

東北支部長 NO. 218 和田 隆

NPO 5周年おめでとうございます。

東北支部の近況を報告します。東北支部は、平成15年(2003年)10月25日に福島県郡山市「ホテルラフィーネ郡山」で立ち上げ会を行い、前理事長の池田徳三郎氏にお出でを願い、東北支部として発足しました。会員13名が参加し、小規模ながら「南の会東北支部」がスタートしました。そして、約1年後の平成16年(2004年)9月4日に宮城県仙台市太白区の「茂庭荘」で本部から副理事長の宮寄哲郎氏にご出席をいただき、支部総会を開きました。会員の異動に伴う役員の変更で、支部長和田隆=会津若松(No.218)留任、副支部長氏家孝=仙台(No.498)留任、委員目黒功=会津坂下(No.764)新任、同じく渡邊英勝=仙台(No.467)新任、広報大宅(おおたく)清繁=青森(No.404)留任が選ばれました。総会の出席者は会員16名、ビジター26名計42名となりました。本部からお出でいただきました宮寄哲郎氏より「南国暮らしの会発足5周年の歩み」「南国暮らしの会の活動の現況」についての講演をいただき、またバリ会友の長岡美和子氏から「バリ島ロングステイのためのビザ・食・住・医療」と題しお話をいただきました。そ



のほか、情報交換として、支部長和田 隆が「タイ国2週間気まま旅」、委員渡邊英勝氏が「フィリピンってどんな国?」と題して情報の提供を行いました。総会後の懇親会が盛り上がったことも付け加えます。

東北支部は、地域が広く、かつ会員が少なく、今のところ支部会員全体での活動は年1回の総会に限定されています。しかし、11月26日に仙台在住の会員数名が、仙台市内の某居酒屋で「情報交換会」を持ちました。次回は1月22日を予定しています。全員が集まなくても、都合のつく

会員が、都合の良いときに、都合の良い場所に集まって、情報交換をしたり、懇親を深めたりすることが大切であると思われます。それと、支部会員が、情報の受信者というだけでなく、情報の積極的な発信者となるべく心がけたいと思います。そのためには、南の会本部の総会・情報交換会への参加、それと、できるだけ、好きな国あるいは

好きな地域への旅行も欠かせないと思います。現実にもそういう行動が可能な人と、まだ現役などの理由で行動できない人もいるわけで、それらを会員同士で情報の共有ができれば良いと思います。今現在情報の受信者の立場であっても、近い将来情報の発信者となることは間違いないと思います。

## 甲信越支部について

甲信越支部長 NO. 96 宮澤 英光

NPO法人取得5周年おめでとうございます。

現在の支部関係登録会員は17組と少ない構成になっています。既に海外居住をされて会員を止めた方々もありますが、いずれにしても土地柄からか、あまり参加者は多くないのが実情です。ここ数年会員の情報交換会・懇親会を年一度開いていますが、やはり参加者が数組と少ない状況となっています。甲信越と一口で言っても広大な地域ですし、開催場所選定なども大変難しく、また交通の便に問題が有りますのでやむを得ないところかとも思っています。

春に諏訪および松本地方の高原リゾートで、1泊

2日の楽しい交流の場を持っていますので、今まで参加されなかった会員の方は今後是非出席を頂きたいと思います。なお、毎年東京より役員の方の参加も得ていますので、沢山の情報が聞けて有意義な場ですので、こうした機会を利用して頂きたいと考えています。

また支部会開催に関して、何かご意見など頂ければ大変有りがたいと思いますので宜しくお願い致します。平成17年度も5月頃にはリゾート地で開催したいと考えていますので奮ってご参加をお願いします。

## NPO法人5周年を迎えて

関西支部長 NO. 51 森川 清

NPO法人5周年、会員も大きく増え、組織も磐石となりご同慶の至りです。

法人への道のり、どれだけのご苦勞があったことか、池田会長、酒匂理事長、役員諸氏のご努力に深く敬意を表します。

海外諸支部長、会員の方々へのサポートは会の際立った特色で赴いた先での暖かいご支援は本当に有り難く、安心して滞在先での充実した日々を送

れる大きな力となっています。

こらは諸氏の報告メールを見ても如実に判ります。

支部運営で足らないところが多々あり、会合に如何にすれば遠いところ足を運んで頂けるかに努力の要を痛感致しております。

会の今後一層の発展を願っております。おめでとうございます。

## 南の会 NPO法人格取得5周年を祝して

顧問 NO. 32 寺前 伊蔵

はじめに

1977年南国暮らしの会発足以前に先立ち初代表の竹内様邸（比国プエルト・アズール在住）を訪問し、ご厄介になって約8年になります。南国暮らしに夢を育みながら、また60余年前の南方戦線でマレー半島を行軍縦断し、多くの戦友と生死を分かち合った南の国で生き残り、現在戦友の鎮魂と避暑、避寒が出来るとはなんと果報者であろうか。

経済の後進国と言われた東南アジアを、東・南と駄馬に鞭打ち乍ら歩き回り、移住先の決断選定も出来ず、景気減速に脅され続けましたが、現在タイ国北部のチェンマイ市の片隅に建つミニアムの部屋を借り受け、2ヶ月タイ国、3ヶ月を日本（日本の寒季、暑季を避けて）に滞在を繰り返し、余生自愛の日々です。

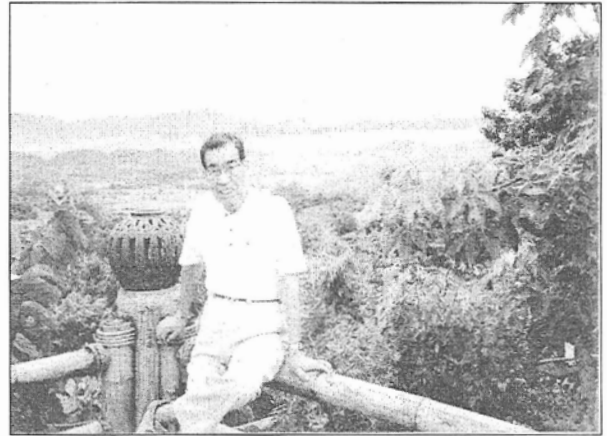
チェンマイ前支部長鈴木氏を初め、来タイの現東海支部長横井氏、関東支部長宮寄氏、現理事長酒匂氏その他会員（滞在者、来タイ者）の皆様と交誼に預かり互いに判断出来る情報の交換を行い、長年の友として心を許した交流に預かり深く感謝の日々を送って居ります。

### 南の会の発展を祝う

去る10月末帰郷、不在中の雑用片付けに追い回されている折、理事長より架電、NPO法人認証5周年の為何か感想原稿をとの要望があり、なにぶん80歳を過ぎた私でもあり日本語も忘却、とても記念原稿などとお断り致しましたが、元気にタイ国のチェンマイに今でも出向いている自分をご存知で、元気に生きている証にと励まされ半強制的・・・ボケ防止のつもりで引き受けますか。と云うと、ボケなんてとんでもない、まだまだと励まされ遂に引き受けた次第です。

早速過去数年のアルバムを開き当時を思い感じるままに老いの一筆を認めました。

私が最初に東京の会合に参加させて頂きましたのが平成10年の会合か2回目のセミナーだったと思います。当時の会員は40名前後だったと思います。以来6年、NPO法人格取得5年で800余名（家族会員含む《実質決定権は家族会員の方が？》）に発展するとは・・・名ばかりの南の



会役員ですが喜びに耐えません。

これも執行役員の方々が無報酬で努力して下さった賜と感激すると共に同慶の至りと存じております。

3年前の冬、私は腰痛で南国暮らしを半ば諦めていました。が、ある日会員のS氏から電話を貰い、その折「自分はもう駄目だ、腰痛で身動き出来ない南国暮らしは夢になりそうだ」と弱音を吐くと、「腰痛位で夢を阻んでは駄目だ」と叱られ、「腰痛を治せる体操のビデオテープを直ぐ送るからこれで体操を毎日やりなさい」と、そのテープが直ぐ届きました。この腰痛体操を繰り返し励行しているうちに何となく自信が付き、数ヵ月後には南国に行けるように快癒し現在に至っています。

お互いを気遣い、励まし、前向きな生き方を実践する。何と言う素晴らしい仲間の集いでしょう。

生ある限り元気で楽しく、また滞在先での貢献が如何に出来るかで、これからの過ごし方も楽しく明るい生き方が出来るような気がします。

先ず、私も在タイ（チェンライ）中は、南の会会員に多少なりとも奉仕致したく思っております。携帯電話：04-150-9247へ連絡を下されば、私の知る限りの付近の情報をお知らせします。

尚この携帯電話を使用すると日本への架電は3分間75円位、ホテルから架電の1/10位で通話できます。こちらへお出掛けの節は携帯電話のご利用をお薦めします。

また付近のホテルは日本人もよく利用されてい

ます。閑散期ならば1週間程度の滞在で一部屋一白(Wベッド)1,500円程度でOKです。付近にはナイトバザールやバスターミナルがあり便利です。電下されれば出来るだけ案内致します。

#### チェンライ、メイサイ市の1部案内

最近北方山岳民族と思われる方々が市場の周辺に特産品店舗(露店)を開設され主に山菜等の品が大量に出回って居ります。勿論言葉は通じませんが結構商売の要領は上手にやっています。自分で煮炊きする分には食べ物の不自由はありません。また近くに温泉があり、湯温は熱く水で調節、設備は日本と比べ良いとは云えませんが、入湯ごとに湯を入れ替え清潔さは問題ないと思われま

す。自然を求め奥地へ進めば竹の家が散在し、中腹には宿泊施設が約十数箇所あり、バンコク辺りの中国人やタイ人の裕福な実業家の保養場所として利用されて居ます。勿論日本人も暑い時期には避暑に利用されているようです。山頂のレストランも殆ど竹で作られており、中々お趣のあるレストランです。しかしトイレ、入浴施設は市内のホテル並と言う処です。

途中小さなダム湖のような所にも保養施設があ

り、日本の小さなホテル並みの完備に驚きました。

近年チェンマイより滞在延長の用にパスポートに出・入国スタンプを貰う為、三人並びのバスが運行されております。料金は600円少々で片道2時間40分程度でチェンライ着、ビルマ(ミャンマー)国境のメイサイまでは3時間20分で到着、メイサイ市には中国製の安物売店が道路の両側に犇いて昔の闇市さながらです。

チェンライ、メイサイでは中国系美人を良く、見掛けは日本人かと思間違えるほどです。長い年月辛苦を舐め、現在は裕福な家庭を築かれた華僑の娘さんであろうと推察されます。

尚チェンライ、メイサイ間はタクシーでも往復2,000円位です。

シニアライフ研究の為チェンライ、チェンマイへのお出掛けをお待ちしております。

素晴らしい南の会の仲間と(日本では中々会えない)お会い出来る日を楽しみにしております。皆様のご健康とご多幸を祈っております。

では南の国で

## NPO法人南国暮らしの会設立5周年にあたり

### 顧問 NO. 1 青柳 信

NPO法人南国暮らしの会設立5周年にあたり17年新年号を特集版として出したいと思っておりますので何か書いて下さいと理事長さんから依頼があり、大変困りました。私よりはるかに学識もあり、経験も豊かな先輩の会員も多数おります。

一度お断りしたのですが、再度、依頼がありましたので、あまり迷惑をお掛けする事も出来ませんので法人設立当時を振り返って見たいと思っております。当時の設立者名簿を見ますと17名の会員の名前が記録されております。その中には歴代の理事長さん、現在もご活躍の何名かの理事さんや監事さんのお名前を見受けられます。

その後、会員数も増加して国内、海外を併せると約16の支部に大きく発展し、TVや海外での生活に関する本の中にも、池田前理事長さんをは

じめ、多くの役員や会員の写真や記事が見られるようになり、そのご努力により会員数も増加の一途をたどっているようです。

大変素晴らしい将来性のある組織に発展して参りましたが 将来への新たなる発展を考えると、新しく今回、特定非営利活動促進法が成立しましたので、その分野への事業も理事会で将来検討されては如何でしょう。

介護認定審査会や保険福祉事務所で仕事をしている私としては、皆さんもご存知のことと思いますが、日本の高齢社会は、年々その厳しさを増してきてきている現実を見ております。

当NPO法人が将来への新たなる発展を考える



とき、定款の第5条の2に明記されております介護の分野への関心を深めなくてはならないと思います。

NPO法人の運営に関して、検討すべき事項が2～3散見されます。NPO法人と理事会との法的関係、理事会と監事会との関係、監事会は独立した監査機関であることを忘れないで下さい。当法人の将来発展のために敢えて元監事として苦言を呈します。

日本の国家財政は年々厳しさを増しております。年金も、介護の分野も、医療の分野も高齢者には厳しい将来が待ち受けております。

日本の格付けも、国債の格付けも先進国の中で

最低の格付けです。日本の銀行でトリプルAの銀行は一つもありません。

これからは、自分たちの老後は、自己責任で切り開いてゆく以外に道はないと思います。脱線しましたが、数年後の日本、更に十数年後の日本を考えて下さい。

当NPO法人も会員の老後（リタイヤ後）の資産管理の分野の情報も提供して頂ければ有り難いと思います。

おわりになりましたが、当NPO法人南国暮らしの会の益々の発展を心からご祈念申し上げます。、また、何かとご尽力を戴いております役員諸兄にお礼と感謝を申し上げます。

併せて会員のご健勝をお祈り申し上げます。

## 「南の会」5周年を迎えて 本会と共に歩んで思うこと

顧問 NO. 40 平澤 信

寒さが苦手な人達が、こんなにも沢山いることに驚きと共感を覚えました。発足当時は、避寒先国も限られていて、フィリピンやマレーシアへの旅が殆どでした。それでも、寒い冬に暖かい国へ行き、分厚いコート脱ぎ捨て、Tシャツに着替えるときの、体が伸びやかになっていく爽快さ、嬉しさは忘れることが出来ませんでした。

発足から5年。会員数も800人を超えたやに聞いております。大きく育ったなーと言う感慨はありますが、大きくなっただけで、果たして、充実度はどうか？会員へのサービスはどうか？進化し続けなければなりません。

当初は、会員からメンバーを募って、フィリピンやマレーシア等の南国を見学に出掛けました。しかし、旅行内容は、超一流ホテルに滞在し、豪華料理を食し、行動の全てを旅行会社の添乗員が仕切ってくれると言うパターンです。世に言うバック・ツアーと何ら変わらないものでした。これでは、外国でのロングステイの参考にはならないと誰しもが思いました。

5年後の今日、人数だけでなく、質の点でも飛躍的に向上いたしました。会員の多くの方々が、ご自

分のお気に入りの国を見つけ、ステイを楽しんでおられます。

当初のフィリピン、マレーシアから、タイ、インドネシア、ベトナム、カンボジア等へと範囲も広がりがつあります。

会員の中には、海外駐在体験の豊富な方も多く、アジアに限らず、いろんな国の情報が得られるようになった事が大きな要因だと思いますし、大変喜ばしく思います。

ただ、人数が多くなれば、その分、苦情や問題も多く発生しているように思います。

特に、アジア女性に対する苦情は、より多く耳にします。過日の「サロン会」の席で、何人かの男性にこの事に関する、ご意見を伺ったところ、「アジアの女性の扱いに貴方のような潔癖なことを言うのは、博物館行き考えだ！」と言われました。が、果たしてそうでしょうか？

前述の意見を言った人が、あまりにも何気ない、普通の男性だったことに大きな衝撃を覚えました。その言葉の裏に、そんなこと「日常茶飯事」と言う言葉が隠されていると思ったからです。

旅をしていて感じることは、私達日本人は、東南ア

アの人達よりも少し上等な人間だと思っている感じが感じられてならないのです。

私達日本人だけが、上等である筈がありません。この名に恥じない行動を取りたいものです。こんなことを書きながら、酸いも甘いも噛み分けた「南の会」の皆様にも中学生にもの言うような言い方で、大変僭越なことを申し上げてしまいました。でも、女性の立場からは、どうしても釘をさしてほきたい一言だと言うことを心に止めておいて頂きたいのです。

次に思うことは、「南の会」に入っただけで、それぞれ、何かを求めてお入りになったと思うのですが、何かが見つかりましたでしょうか？ お手伝いできることは、何でも致しますが、旅行代理店のようなホテルの世話や、空港へ出迎

え等は当会の活動の範囲を越えていますので、特別の場合を除きご容赦して頂いています。ご存知かも知れませんが、本会の理事始め、役員の皆さんも、全くのボランティアで会を運営しております。至らないことも有ろうかと思いますが、「サロン会」の席など利用して、何なりとお声を掛けていただきたいと思います。皆で作りに上げていく「南の会」です。

どうか、初めてお入りになられた方も、「会が何かしてくれるであろう」、と待っているのではなく、では、ご自分は、「この会のために何ができるか？」と言う観点からご検討いただくと、参加することが一段と楽しくなるのではないのでしょうか。

## 南国暮らしの会 5周年によせて

甲信越副支部長 NO. 465 橋本 慧

私が「南国暮らしの会」の存在を知ったのは3年前、退職を翌年に控えた1月頃です。ITで遊んでいたところ偶然木村さんのHPに巡り会ったのです。戦後の厳しい時代に、行商をしながら子育てをしてきた母への想いを綴りながら、南国生活へふみだした動機と経過を軽妙なタッチで表現している文章に痛く感動を覚え、衝動的にメールを送信したのがきっかけです。同じような思いの背景には、同郷、同年齢、同じような成長過程の記憶があったからなのかもしれません。

入会1年後、どういうわけか宮崎副理事長さんに見込まれて総会の議長をおおせつかりました。根っからの田舎者ですから、大崎の会場へたどり着くのも、会場で見知らぬ会員たちと顔をあわせるのも真に心細い心理状態でちぢこまっていました。その時、控えめな心配りと温かい笑顔で迎えてくれたのが現理事長の酒匂さんでした。病み上がりで生気に乏しい表情が気になりましたが、それだけに優しい包容力が私の緊張を解きほぐしてくれたのです。

2年前退職するや、解き放たれたようにバリ、ペナン、サンディアゴ、オランダカリブ海クルー

ズ、チェンマイ滞在、そして今回のフィリピン旅行と、120日あまりの南国の旅を楽しんできました。2年続けて総会の議長をおおせつかり、総会後の懇談会も大い楽しみ見ました。旅先で、大崎の会場で、大勢の会員の方と知り合い交流を深めてきました。不思議なことに不快な感情を覚えたことが1度もありません。この文章を書きながら、どうしてなんだろうと私の分析癖が頭をもたげます。人間は夢や理想を追い求めて寄り合ったときには一人一人の善意がもろに表に出るんですね。小さなわだかまりや衝突を乗り越えるパワーが生まれるのですね。

余談ですが、現役時代（中学校教師）、[みんなで作る喜び]が、私の経営哲学でした。具体化可能な夢のある教育実践をみんなで作って出そう。何かを創りだそうという情熱を持って知恵を出し合い実践を高めていく過程で、職場のモラルが高まり、教師は人として成長し専門性を高めていくことが出来る。そうした信条でやってきたので、いわゆる「教育困難校」の勤務が大半でしたが、どちらかというと困難を楽しみながら乗り切ることが出来たのではないかと思います。

氏放では海外ロングスライ番組が面白おかしく報道されて、今や「南国暮らしの会」は会員数800余名に達しました。グループメールからは読みに耐えない不愉快な情報も時たま伝わってきます。これからの会運営の困難さが予想されます。「大きい事はいいことだ」とも言っておれない状況に至っていると考えます。全国津々浦々から、可の面識もない人たちが「南国生活を楽しまたい」という大きな夢のもとに寄り合って出来た同好の会ですが、どこで出会っても直ぐに旧来の友のように打ち解けることができる不思議な雰囲気を持っています。現地へ行けば長期滞在の会員諸氏が身を粉にしてお世話してくれて、恩着せがましいところが少しもないのも素晴らしいです。首都圏の会員の皆さんが中心になって、会の運営や会誌の発行に献身的な努力を続けてくれていることも忘れてはなりません。〔南国暮らしの会〕の持っている善意に満ちたこのような人間的な雰囲気は、会の創設と発展に寄与して頂いてきた幹部会員のみなさんの理想に燃えた実践の積み重ねと人柄によるものだと考えます。海外生活に関する有益情報もさることながら、この会の人間的なネットワークこそがかけがえのない財産なのではないでしょうか。

- ・ 云理昌のこんな立場につきも導入にのめつたり権威的になつたりしないこと。
  - ・ 年金生活者程度の生活感覚で情報提供や交流を行うこと。
  - ・ 会員の生活の基盤の違いによってさまざまな海外生活（旅行）のパターンがあることに理解を示すこと。
  - ・ できるだけ自分の情報収集力と行動力で海外生活を作り出す事。
  - ・ 自分が楽しんだ分は自分で支払うこと。ギブアンドテイクのバランスを考えて。
  - ・ お互いになくて七癖。良いところに目を向けて相互理解を深めること。
  - ・ 海外生活の経済的基盤はしっかり固めておくこと。いやしくも「南国暮らしの会」を利用して不当な金銭的利益を求めないこと。
  - ・ できるだけ現地の平均的生活者との交流を心がけること。
- 会の美風を守り育てていくために、また活動の質をさらに高めていくために、以上のような点に配慮しながら会の運営に協力し携わっていくべきだと考えます。

## ご近所さん募集

### 愛知県在住 NO. 81 足立 ひろ子

5周年おめでとうございます。

長い間、「会報見るだけ会員」の私でしたがようやく東海支部もできたのにもかかわらず、最初の立ち上げの会合に1～2回出ただけで後は、日曜日は、子供の食事の心配もあり、欠席していました。

「何時なら、出席できるの？」の問いに平日の昼間と答えたのが始まりで、東海支部平日懇親会が、発足することとなり、催事（福）という肩書きまでいただきました。することといえば、申し込みの人数をまとめてホテルのレストランに予約を入れているだけの仕事です。約1年位つづいています。東海支部平日懇親会は、名古屋駅の隣のターミナ

ル アソシアホテルのランチバイキングで、ランチを食べながらの情報交換会です。名古屋にも何件かのホテルランチバイキングが、ありますが、ヒルトンやマリOTTなどは、90分とか120分とか時間が決められてしまうので、チョット見目は落ちますが、午前11時開店で、後はご自由になるので、午後の3時近くまで、4時間いたこともあります。わいわいがやがやお話していると、あっという間に時間が過ぎてしまいます。それに、お互い気心も知れてくると、これが実に楽しい。話題があっちこっちにそれ、真面目な話から、下ネタ話まで、今では、私の楽しみのひと時です。会員の方々の楽しい満足した笑顔を見るのが、ま

た、一つの私の喜びにもなっています。  
南の会が予約を入れた日のランチは、テーブルが私たち一組しか回転しないので、ホテル側からしたら「南の会だ。儲からんな！」と言われているかもしれませんが、これも名古屋流で、毎月1回必ず来る団体として、予約入れたり人数の変更をしたり電話をいれると、どの従業員の人も「あっ！南の会様で・・・」と電話口から親しげな口調が聞こえてきます。私もほっとするのでした。

私と南の会との出会いは、98年6月12日の名簿の最後に、81番足立ひろ子として載っているので、6年半ほど前になります。なぜ、入会したのかは、私の燃えつき症候群の最期の末期症状だったのかなと思っています。18歳で高校卒業し、その後、愛知県警の交通巡視員になりましたが、大きな組織には体質があわないのか、1年と2ヶ月、同期生40人の中で1番最初に辞めたのは、私でした。その後、自分で独立したいと思い夜昼と働き、睡眠時間4～5時間で、頑張りました。結婚もして子供も出来ましたが、家にいるより、仕事の方が好きなのか、子供を引き取り、さっさと4年ばかりの結婚生活に、終止符を打ち、離婚しました。でも、子供にとっては、父親なので、毎週、子供だけは、父親と自由に、会っています。そんな私も40歳になって疲れが、出てきたのか環境を変えたい、ゆっくりしたいと思い始めました。仕事も順調でしたが、仕事に区切りをつけ、まあ、その頃には、贅沢しなければ、日本でも普通に暮らせる目途も立っていたので、思い切ってリタイヤすることにしました。忙しさと子育てが重なり、かなりのストレスで、心療内科にも、通っていました。健康とお金どっちが大事か。私は健康を取りました。

そんな頃、南の会を知り、フィリピンなら、日本で暮らすより、2倍も3倍も優雅に暮らせることを知り、私の、考えが変わりました。

こんどの目標は、フィリピン一家移住だと思えば、ストレスも何処かへいってしまいました。思い立つと、いてもたってもいられない性格なので、早速行動開始、マニラ詣でが始まりました。NWの深夜便で、マニラ到着。ホテルは、使わず、前々会長の竹内さんの紹介のマニラ歴8年の女性宅に、泊めていただきながら、実際にマニラの暮らし体験したほうが、好いだろうとの竹内さんのアドバイスもあり、空港からタクシーで、はがき1枚の紹介状と、私が事前に彼女の承諾を得る為にかけた国際電話1本だけと、空港から、「今、着きま

した。お世話になります。」の公衆電話だけで真夜中に知らない人の家に行く厚かましさ。ここがこの家だという運転手、でも違っていたらどうしよう。ここは怖い真夜中のマニラだよ。置いてかないでよ～。

運転手に、「ウエイト ヒャ～」が通じたのか彼も車から降りて、一緒に何回もブザーを押してくれた。

それから、彼女に紹介されたマニラ歴18年のおばちゃん宅にも泊めてもらい、子供の日本人学校の見学、インターナショナルスクールの見学、病院、物価水準、住む家捜しと、何回も、マニラに通いました。

最期の結論、余りにも私の英語能力のなさ、インターナショナルスクールの入学案内書は、もちろん全部英語、きつと毎日のお便りも英語だろうな。毎日、辞書片手に大変だ。月謝は、約10万円。治安の良いマカティ周辺は、あの当時で15万～20万の家賃でした。そう考えると、名古屋にいた方が楽だわ。になりました。名古屋の家やら、貸家やらの管理はどうしよう。考えれば考える程頭のなかは、グチャグチャになり、そのうちにマニラ熱も下がっていきました。

今から思えば、あの時移住しなくてよかったと思います。私1人ならば、どんな環境でも自分の選んだ種と割り切れますが、家族を伴い80歳の年寄り小学生の子供づれでは、まだ、意思決定のできない子の人生を、私が、勝手に決めてしまっているのだろうか。そこまで悩みました。私には、荷が重過ぎる。

でも、時が経てば、解決できる事なのだ。お婆ちゃんも、そのうち死んじゃうだろうし、子供も大学に行ったら、私ひとりになり、実行できる。

家の管理や、郵便物、その他もろもろの事を、子供にまかせられるし、子供にとっても、うるさい親から、解放されるし、私も世話を焼くのも嫌だ。私自身も、余りにも親が世話を焼くので、19歳から親元から離れた。

そんな訳で、私は、1～2ヶ月のLSではなく、「最期は、その地で火葬にして骨は、海にまいてください。」と、子供にも今から、言い聞かせている。子供の世話にはならず迷惑かけずにをモットーにして生きたい。私の周りにも、親の介護に、疲れ果てている人も何人いる。また、老々介護どっちが先に逝くか競争している老夫婦もいる。いくら介護保険が出来たからといっても、家族は大変だ。お互いに「愛」があるだけ、苦悩も悩

も深い。

そこで、私は、ある考えをあたため続けている。  
日本人村構想の変形プランだが、気のあった数家族で、スープの冷めない距離に住のだ。

例えば、同じビレッジの借家に隣同士では、喧嘩の元になるので、何件か先に住み、困った時にたすけ合う。例えば、Aさんが風邪で寝込んでいるとすると、メイドでは、日本のおかゆは、つくれない。そんな時、私がおかゆを作ってAさんの家に持って行くのだ。Aさんが、オムツの状態になったら、私自身は、Aさんのオムツを替えることは出来ませんが、メイドに、指示を出すことはできます。そして何が欲しいか、どうして欲しいか、聞いて、例えば日本の息子に連絡して欲しいならば、連絡します。全員が痴呆でヨイヨイでは、無理ですが、メイドや看護婦を雇うことが出来る人件費の安い国で、頭のしっかりした日本人が3人いたら、2~3人の病人の面倒は、みられると思います。助け合いながら、爺さん、婆さん、楽しく生活しましょう。

これを、日本の隣近所でするのは、今の日本では、絶対無理です。でも私の生まれた田舎では、私の子供の頃まではしばしば見かけた光景でした。

一人暮らしのお婆さんがいて病気になったら、近所の婆さん仲間が、世話をしにっていました。死んだら、村で葬式を出していました。

何代も、同じ土地に住んで築き上げた共同体でした。他の土地から、引っ越してきても、30年住んでも、近所からは、「新しく、いりゃたひとだわ」と言われ、ようやくその土地で、子供が生まれてその子が大人になり、村の行事に参加できるようになると、村の一員として認めてもらえるという

感じでした。そんな中で、育った私でしたが、10年前に父が他界してから、訳あってその実家を売ることになり、私の故郷は、なくなりました。何年かしてから、昔の村組織というものも、いいものだな。子供のいない夫婦でも安心して暮らせるし、連れ合いが死んでも何十年という人とのつながりが、お葬式まで出してくれる共同体になっている。故郷を失って最近つくづく思う。だから、私は、フィリピンが、好きなのだと思う。貧しくとも、大家族で、助け合って生きている姿が、羨ましくさえ、思える。

そんな訳で、この頃は、ご近所さんになってくれる人を頭の中でぼんやりと描いたりしている。

レンタルで家を借り、回りの環境が悪くなったら、

また、みんなで、引っ越す。やはり日本が良い人は、帰ればいいし、気楽に自由に過ごす。

それには、物価の安い、メイドを雇える、自家用車（ドライバーつき）は安全の為にも必要、そして信頼のおける隣人。一人では、寂しいものね。LSの短期もいいけれど、やはり、マニラで無理やり何件かのお宅に泊めていただき、味わったメイドとドライバーいる暮らしは、私は、忘れられない思い出になっている。

モールでお買い物中、私を待ってくれるドライバー2時間でも3時間でも文句の一つも言わない。元亭主なら、大喧嘩だ。手日差しの強い中、私に日傘をさしかけるメイド、日本でされたことがないので、感激！

18年間マニラで暮らしているおばちゃんに、メイドと上手くいくその秘訣を聞いてみた。答えは合性らしい。「合わない子は、1ヶ月ともたないし、10年も勤めてくれた子もいるし、どうでもいい小さなことで、怒らないことと、たいていは、おなかを空かせず腹一杯食べさせておけば、あまり、悪いことは考えないし、しないもんだよ。日本流を持ち出さなければ、いいのさ。郷に入れば郷に従えだよ。」

なるほど、恐れ入りました。

## 「南国暮らしの会」NPO法人設立5周年記念に寄せて

熊本県在住 NO. 581 朝永 美代子

私は団塊世代一年生。競争社会の中で落ちこぼれながらも必死に生きてきましたが、「南国暮らしの会」に出会えて、今その競争から解放され、おかげさまでこれからの新しい人生に夢を抱いて歩いています。

「南国暮らしの会」への赤い糸はたまたま点けたテレビのマレーシア不動産案内でした。いつもなら見逃しているはずなのにこれもご縁だったのでしょう、何となく気になってインターネットでマレーシアを検索していたときペナンの木村さんのホームページに巡り合いました。そこには私がかつて見聞したことのない雲の上の楽園の世界が展開されていました。その手ですぐ木村さんにメールを送り、ぶしつけな質問にも丁寧にお答え頂いて、そして、この「南国暮らしの会」をご紹介頂いたのです。

15年4月に入会させて頂いた後、会報や南国メールで受信する情報は私にとってはほんとに夢の世界の出来事でした。そしてさらに驚いたことは、たくさんの会員の方がその夢の世界へすいすい「行ってきま〜す」というメールを残して旅立られることでした。ショックでした。自分が時代の流れに遅れをとっているとの自覚はありませんでしたから。

それからというものすっかり南の国に魅了させられてしまい、リタイア後の自分を空想の楽園の中に描いていました。仕事を終えて遅い帰宅をしても、キッチンテーブルの横に置いてるパソコンの電源を入れ、家事の傍らでメールを開くと疲れを忘れました。自分から発信することはあまりできませんでしたが、ラブレターを待つような楽しみが毎日ありました。経歴に縛られない純粋な人と人の出会いを南国メールのなかで見つけ、自分の偏った考え方にハッと気づく事もしばしばでした。母の闘病から死に臨むなど家庭環境の変化や仕事上の理由も重なって、定年まで9年を残し今年の6月に職を退きました。もしこの会に巡り会ってなかったら、おそらく大事なことに気づかないまま、未だに時間との戦いの真ただ中において悪戦苦闘していただろうと思います。

この会に入会してしばらく経ってから疑問に思ったことがありました。様々な状況を乗り越えて、



晴れて海外に移住したりロングステイを楽しんでいる人が会員として会費を納め、さらには他の会員の訪問で自由な時間を割かれて、のんびりリッチに年金生活の目的にはずれているのではないかと。特に一頃のペナンのフィーバー時にはそう思いました。また役員や会報のお世話をしてくださる方、情報を提供してくださる方は、海外暮らしのノウハウは十分持っておられるし、自分が得るものは少ないでしょうに、会費のみでなく労力まで惜しまずに、なぜそこまで、と思ったとき、このNPO法人としての会の存在の大きさをあらためて感じました。

会員の方のメールや報告を読ませていただいて次第に分かってきたことは、国や人種の壁を越えて、たくさんの人に夢や希望の輪を広げることが多くの会員の方々の喜びになっているということでした。

そこには気負いや義務感など全くなく、それぞれの会員が自分の本能の赴くままにさりげなく行動し、でも本気で情熱を傾け、駆け引きのない美しい空間が満ちているということでした。

ゆとりある心豊かな暮らしとはそういうことなのでしょう。時間という貴重な財産をやっと手にした今、

本当に自分にとって大事なものが何であるか、等身大で考え行動することができている気がしています。

一番の変化は身近なところで夫に優しく接することができる様になったということでしょうか。

私たち団塊の世代は、これから定年を迎え第二の人生の出発点にさしかかろうとしています。1年前までは私もそうであったように、定年予備軍のほとんどの人たちの最大の関心事は第二の職場にありつけるかどうかなんです。

リタイア後の限りある人生、心豊かに幸せの実感できる暮らしは一人ひとり違うと思いますが、後悔する道を選ばないようにいろいろな選択肢があることを一先輩として隣人に伝えることができればいいなと思っています。

南国暮らしの会とのご縁は、不器用だけど、な

りふり構わず（単にセンスがないだけなのですが）気まじめに生きてきた自分へのご褒美なのかなと心より感謝しています。つい先日、はじめての視察旅行を体験しただけのほんとに新参者ですが、「南国暮らしの会」の正会員として自分で認めることができるように、身近なところから多くの人に夢と希望の種をまいていきたいと考えています。自分の幸せをふくらますために。

「南国暮らしの会」の益々のご発展を心からお祈り致します。

## 南の会は四輪駆動（4WD）

5周年記念を迎え、ニューフェース会員として南の会を見る

理事 NO. 700 安藤 公二郎

NPO法人認証5周年記念のお祝いを申し上げます。また、これまでの関係者のご努力に対し、心から感謝申し上げます。

今、この文章を書きながら、会員である喜びを噛み締めています。入会后、多くの良い仲間が得られ、心の温もりと活力を毎日与えてもらっています。私が入会したのは2003年11月ですから2年生になったばかりですが、今では生活の大半が南国漬けで、すっかりはまってしまいました。気が付くと、いつの間にか「英会話教室」や「囲碁教室」を主催し、会員の皆様のお手伝いをさせていただくようになっていました。

入会してからの一年間を振り返って見ますと、何か大きな陽性の波動が私の心に変化をもたらしてくれたように思います。毎朝、目が覚めると「南の会に関して、新鮮な楽しみを期待するワクワクした気分」が感じられ、心地よい居場所（巣）にいる自分を発見しています。

南の会の陽性の波動が一体何なのか、見たまま、触れたまま、感じたままを具体的に列挙してみました。「人」「情報」「組織」「展望」の4つの動力源があることが分りました。

南の会はさながら四輪駆動（4WD）だと、私には思われます。

「人」

サロン会（及び、懇親会）に出席する度に、とても居心地の良さを感じます。自分の居場所があるというのでしょうか、とても寛いだ気分になります。その理由を探ると・・・

☆明るく前向きな人が多く、皆に居心地の良い雰囲気を作り出しているからです。

☆序列や肩書きが不要で、人と人とが普段着で付き合っている点です。会員の誰と会話をしても、必要以上に気を使う必要がありません。

☆年齢差や男女の別を、誰も意識している様子が見えない点です。一人ひとりの会員が、互いの人格をこそ尊重しあっているのが良く分ります。

☆思いやりの気持ちを持った人が多い点です。国内外で、様々なボランティアの取り組みをされている人の多さに驚かされます。その人たちの熱意がじわっと伝わって来ると、自分も何らかのお手伝いをしたいというエネルギーが湧き上がってきます。

### 「情報」

海外にロングステイしようとする、最初に必要になるものが渡航や滞在地に関する情報です。渡航VISAに関する情報、衣食住全般の情報、都市の安全・衛生状態の情報など、快適に生活する上での基本的情報が不可欠です。このような情報の一部は市販の旅行本を読めば入手することができますが、大部分は入手が困難です。一般の旅行者

が情報不足のために危険な目に遭っている事例は枚挙に暇がありません。必要な全ての情報を入手しようとしたら、恐らく、大変高価なものになるでしょう。

南の会員なら、南国メールで「〇〇の情報が欲しい」と発信すれば、24時間以内に必ず仲間の会員から詳細な情報を提供してもらえます。しかも、無料です。

「求めよ、さらば与えられん」とは高名な宗教者の言葉ですが、そうすると、情報を提供する多くの会員は神仏の化身でありましょうか。

南の会のメーリング制度は真に優れた制度だと思います。メールを読んでいると活力を与えられることがしばしばです。会員の思いやりや利他の精神に触れる喜びがあります。

情報源としては他に、会報やサロン会などもあります。会報の影響力の大きさは、この紙面では到底言い尽くすことが出来ません。何故なら、会報を読ませていただいて、私は入会の決断をしたのですから。サロン会では、情報が人肌の温もりで伝わってきます。語り手の感情や息遣いまで伝播してきます。参加者の間に一体感が醸成し、仲間の輪が広がっていきます。サロン会は、南の会の源泉で、最も大切なものの一つだと思います。

#### 「組織」

入会当初、役員の方から「南の会には事務所がない。自宅が事務所代わりです」と聞き、非常に驚きました。しかし世の中には、宮殿はあっても実態の無い空虚な社会や組織は沢山あります。一方で、形は無くても『道』がある社会や組織もあります。南の会は、無形の道を組織としているようです。老子や孫子に相通じるものがあります。この組織が成り立っているのは、本部と支部の役員の皆様をはじめ、会員一人ひとりが、利他の精神に溢れ、実践されているからだと思います。

南の会は、このような人々の集団であるために、懐が非常に広く、包容力のある組織だと感服しています。近い将来、団塊の世代の入会者が急増し、会も急激に拡大するでしょうが、『道』の実践組織には大道が拓かれていくと確信しています。

#### 「展望」

南の会の本部と支部の活動を観てみますと、個々の支部は独自の特色を打ち出しながらも、全体的には同じ方向を向いていることが良く分ります。支部の役員の皆様やロングステイされている会員の皆様は、地域の特色やお国事情を大切にされ、地域に根付いた活動を展開しておられます。南の

会（の会員）と地域社会とのコラボレーション（collaboration協力、同調、合作など）が蜜になればなるほど、会員にとってはより一層快適な環境が整うこととなります。多くの会員の皆様のご努力に感謝せずにはられません。

海外に滞在する場合、自己中心的に行動すると、一夜にして快適な環境を破壊してしまうこととなりますので、注意しなければならぬと自分に戒めています。

南の会は、本部・支部・会員が利他の精神を強く共有しています。そして1人ひとりが持ち味を発揮してボランティア参加しています。

このような南の会の将来展望は、「南国晴れ」でしょう。

## 友好団体の掲示板（17・新）

### ☆ワールドステイクラブ（WSC）

本クラブは【世界で作ろうシニアの生きがい】をスローガンに、海外旅行・滞在生活を通じて精神的な充実と生きがいを求める親睦団体です。

住所：〒162-0827 新宿区若宮町37 セレクトビル2F

Tel/Fax：03-3268-2731~2732

E-mail：worldstay@nifty.com

URL；<http://homepage3.nifty.com/worldstayclub/>

入会方法：申込み資料請求（要500円・郵券可）

創立：1995年11月 [会員数] 約900名

代表者：西 博

・入会金：5,000円 ・年会費：6,000円



## 「ダピタン会」のご紹介

副理事長 NO. 101 高澤 弘晃

### 「ダピタン会」友好団体に認定されて

前回「南国暮らしの会」理事会において私の所属する「ダピタン会」が友好団体として承認されましたことに深く感謝申し上げます。

えっ 「ダピタン会」ってなあに？」と思われる方もおられると思いますが、実はダピタン会メンバーの8割近くは南国暮らしの会の皆様です。平成13年に南国暮らしの会「調査チーム」によりフィリピンを調査中ミンダナオ島の田舎町であるダピタン市を訪問した時、その学生たちの現状を見て経済的に苦しく学校に行けない地域の子供たちの訴えに強く心を打たれ何とかしなければと感じたしだいです。

私たち「ダピタン会」メンバーはフィリピン大好き人間の集まりです、そしてその国にいつもロングステイでお世話になっています、お世話になっている以上少しでもその国にお返しができればと感じたしだいです。

その結果現地の子供たちの授業料を支援する会として発足しました、題して「ダピタン会」です。

平成13年5月27日のことでした。メンバー24名、奨学生21名、川上元会長を筆頭に宮崎氏、私等ほとんど南国暮らしの会のメンバーで支援に関しては全くの素人です。

どのような会にするのか、会の規約は、支援方法は、支援額は、募集方法は、奨学生と支援者との関係は、何から何までわかりません、全て手作りでスタートしました。どこの支援も受けずに3年半ほど経過した現在、メンバーも奨学生も丁度発足時の倍の人数になり一段落したところです。

今では南国暮らしの会の皆様に学生たちを支援する会として胸を張って紹介できるところまで成長しました。

私たちは奨学生の子供たちをとおして多くのものを得ています、支援一辺倒ではありません。

子供たちへの支援を通して自分の人生も見えてきます、充実感ももらえます、我々が逆に励まされることもあります、多くの喜びと心の充実感を得られました。



私たち役員は南国暮らしの会の皆様にも賛同される方があれば是非参加いただきたいと思い中村会長より「ダピタン会」をご紹介申し上げます。

## 「ダピタン奨学基金会」のご紹介

「南国暮らしの会」の皆様こんにちは。

このたび「南国暮らしの会」から一友好団体としてお認めいただいた「ダピタン奨学基金会」（以下「ダピタン会」と略称します）について、本年より代表を勤めさせていただいている私、中村忠より会を代表して、会の内容と現状の活動について報告させていただきます。

このダピタン会は、去る平成14年「南国暮らしの会」の理事でもある、川上さん、宮崎さん、高沢さん、梶野さん等皆さんの肝いりで発足しました。川上さんが良く行き来していたフィリピン北サンボアンガ州ダピタン市の、家が貧しく向学心に燃えながらも高校や大学に進学できない子弟を援助してあげようというのが、そもそもこの奨学金を思いついた発端でした。ご賛同者が着実に増えて平成16年度は奨学生計47人（大学生39人、高校生8名）を会員44名で支援しており、また最近になって二名が新たにご加入いただいています。

「南国暮らしの会」の皆様の多くはすでに充分ご承知と思われませんが、フィリピン、とりわけマニラを初めとする大都市以外の地方の大半の子弟は、我々の想像を絶する貧しい生活環境にあり、また多くが大家族の一員で、とても上級教育を親から受けさせてもらえる金銭的余裕がないのが実情です。それでもこの国はどんな僻地に行っても皆とても教育熱心で、また子供たちも一所懸命勉強して親や兄弟・姉妹を楽にさせてあげたいと真剣に考えています。我々旧世代に属する日本人は、このような実情を見るにつけ昔の日本もこうだったなあという感慨に浸り、何とか支援した上げたいものだという気持ちにさせられます。

現実に奨学金援助といっても、ダピタン市での学費（主に授業料）は、高校生で年5千円、大学生は年1万円程で済むことから、今の日本の金銭感覚からは考えられないほど小額の支援で子供達が就学できるわけです。私自身も、ゴルフをたった一度だけ我慢すれば一人の大学生と一人の高校生の学費を一年間丸々面倒見ることができることを知り、二つ返事で入会させていただいたことを覚えています。

このダピタン会の特徴は、何と言っても生徒（奨学生）と里親（スポンサー）が、一対一の関係でストレートな交信ができることです。里親の援助金は若干の会費（年2000円）を除いてすべて生徒の学費に回すことにしています。生徒からは必ず感謝の手紙（たどたどしい英語ですが本当に心のこもったレターが）が自発的に書かれ、また学期の変わり目などに成績の報告も来ているようです。

他方でユネスコのフォスタープランも途上国の子弟の金銭的援助で幅広く活動しているようですが、会の組織が大きいため運営費が嵩み、里親も高額な援助額（一例ですが私の娘は月5千円払っていましたが）を出す割りは、奨学生との関係は組織を経由するためかさほど親密にはなっていないようです。ダピタン会の場合は会自体が小規模の故か、真に愛情溢れる里親と奨学生間の人間関係が構築されているようです。

但し、ダピタン会の趣旨として、里親と小学生の間の濃密な人間関係を構築することを称揚するかたわら、生徒が学費援助のレベルを越えた過剰な金銭的要求をせぬよう堅く戒めています。時には「ダメもと」で何かをおねだりする生徒も皆無とはいえませんが、当会の現地責任者が上手に指導してくれていますのでこれまで殆ど問題は生じていません。

さて、今年度の当会の目標は、遠くから通わざるを得ない生徒達の通学の不便さを解消すべくダピタン市の中にドーミトリー（寄宿舎）を2年以内に建設して上げようというものです。ご承知かと思いますが、ダピタンの大半の学生達は電気も水道もない、また恐ろしく住環境の劣悪な家から遠路はるばる（ある子供は2時間もかけて）通学しているのが現状です。現在当会は建設委員会を設置し、基本計画・見積入手・資金計画を鋭意検討中ですので、具体案が固まり次第「南国暮らしの会」の皆様にもご披露し、しかるべくご支援を呼びかけたいものと切望しております。その節は何卒よろしく願いいたします。

ダピタン会は会の性格上、あまり肥大化して活動が本来の趣旨から離れないように常に気配りをしておりますが、同会の趣旨にご賛同いただいて積極的に困っている勉強好きな子供たちを支援してあげようとお考えいただける方は諸手をあげて歓迎いたしておりますので、どうか気軽にお声をかけてくださるようお待ちしております。

## 5周年記念情報交換会報告

副理事長 NO. 163 宮崎 哲郎

おかげ様で会員、関係各位のご協力を頂き今回のNPO設立5周年記念特別情報交換会は、平成16年11月14日盛大かつ誠に順調に開催できましたこと感謝申し上げます。

総会司会を5周年記念委員長の市東理事が執り行ないました。

### 1. 5周年記念式典

1) 酒匂理事長より記念挨拶：南の会もそれなりに歴史があり、風雪に耐えココまで来たのは会員・役員・そして池田前理事長そして生みの親である元会長竹内様のご功績でこれに感謝。・南の会の現状（会員数現在532組850名）・将来展望・南の会の歴史等のお話を頂きました。

2) 設立功労者への花束を池田理事長、酒匂理事長へ南の会「マドンナ」427小川政子さん、428岩瀬光子さんのご姉妹より贈呈していただきました。

3) 来賓挨拶：ワールドステイ元会長 森実 政純殿より今後同会との連携を強めて行きたいとの熱いメッセージが送られました。（生憎現会長御用のためご出席できませんでした）

4) 記念事業報告：海外旅行便利帳（医療偏）の発表を平尾理事、会旗（シンボルカラーの青・マークをベースとした素晴らしい旗です。）の発表を市東理事。なをシンボルマークは先日商標登録が特許庁より認証されました。

5) 新理事・退任理事・現理事のご紹介（20名となりました）

### 2. 情報交換会

1) フィリピン大使館観光省 横山 泰彦様より：最近のフィリピンの状況、メディカルハブ構想、セブパシフィック航空（従来はフィリピン航空のみ）の乗り入れなどの最新情報。

2) フィリピン大使館商務部 山家（ヤンベ）俊夫様より：ほぼ永住権が得られる「特別居住退職者ビザ」のご説明。

3) タイ国政府観光庁 藤村 善章様より：最近のロングステイ候補地としてチェンマイ・チェンライ・ノンカーイ（ラオス国境で米国人ロングステイヤー多し）・ウドンタニーパタヤ近郊（シーラチャ）などそしてタイのメディカルハブ活動（技術は国際的、コストはタイ国内価格でサー



ビスを享受)

4) 会員512金子良三 様より同氏の43年におよぶ経験から地球上ここダケは見ておかないと後悔すると思う名所ベスト10のお話でしたが溢れる知識をお伝えする努力をされたため全部の国に言及できず時間切れとなりました。

金子さんがお勧めの国と名所は：

1. エジプト 2. モロッコ 3. トルコ 4. スペイン 5. フランス 6. イタリア 7. ハンガリー 8. インド 9. 中国 10. ノルウェー

名所ベスト10は：

1. バイエレン州とその周辺 2. パラオ諸島とボンペイ 3. スコッツデールとその周辺 4. シアトルと周辺 5. エアーズロック 6. ベルナーオーバーランド 7. オーストリア 8. 韓国中南部 9. アンコールワット遺跡 10. インドネシア  
以上の名所でした。

3. 懇親会はいつものところで賑やかに最終9時半までコミュニケーションに皆さん励んで解散致しました。当会の懇親会は友人を作り、ここも貴重な情報交換の場です。大いにご利用ください。なを今回の情報交換会には遠く九州支部 851 稲田さん、東北支部長和田ご夫妻、沼津から834 村田さんがわざわざお出でいただきましたのでご報告致します。

以上ご報告申し上げます。

事務局 宮崎 5周年記念委員長 市東

## 海外会員への心使い

副理事長(事務局海外推進担当) 宮崎 哲郎

本会会員は南の国での生活を満喫するために、自ら希望滞在地の調査訪問が必須不可欠な事です。そこで初めての現地訪問となりますと色々不安な事もありますので、現地に於ける豊富な情報と経験をお持ちの**海外会員にサポートをお願いするのが最も有益で効率的な方法だ**と思います。

幸いなことに当会の海外会員の方々は皆さんはボランティア精神に富んだ良い方ばかりで、訪問される方々のお世話をする事に積極的です。

当初は会員数も少なく同じ仲間意識と訪問者の一般常識を信じ、海外会員は対処しておりましたが、会員数増加に伴い残念ながら一部の方々ですが**非常識な言動を行い、その誠意を踏みにじるような事が最近増加し海外会員を悩ませています**。そこで事務局からのお願いですが海外会員の方への心使いを下記の様にして頂きお互いに気持の良い「旅」が出来る様切に希望いたします。

### 記

- 1.) 訪問される方、サポートする側両方とも**フィフティ・フィフティの関係**です。このことを忘れないで下さい。よくある事ですが**現地では自分が「ボランティアされるのが当然」と勘違い**されている方がおられる事です。海外会員の方は皆さんをお世話することに喜びを感じて親切にされているのです。  
案内はしますが「運転手」でもなく「ガイド」でもないのです。現地会員をその地では自分より経験、情報の豊富な「先輩」として又会の「友人」として接する**気持ちが欲しい**ものです。
- 2.) 海外会員の方もそこで生活をしているのですから自分の都合のつく時間にお手伝いしています。ハードなスケジュールをお願いしないようにして下さい。
- 3.) 皆さんを案内するためには車を使いますのでガソリン代、ホテルを予約したりするには電話料等費用が要ります。これら発生費用を負担するのは当然受益者です。当会ではそのために「**海外会員への謝礼金の目安**」を決めております。  
お配りの「南の会必携8. 生活情報①」を渡航前に良くお読みになってこれを**目安に現地でお礼の気持ち**を表してください。**金額の多寡でなく感謝の気持ちが一番大事なこと**と思います。  
なを現地ですれれば良いかご相談があれば出発前に事務局へお問い合わせください。
- 4.) 案内時の交通事故も皆無とは云えません。又急病も起こり得ます。これらに対する傷害、疾病保険の加入も怠り無く準備して現地会員に迷惑を掛けない配慮をして訪問してください。
- 5.) 食事を一緒にした時は皆さんの為に時間を費やしているのですからお礼の一部として**当然行かれた方が現地会員の分は負担**してください。

3.) 現地でサポートされる方は誠心誠意対応されておられますので**帰国後はご挨拶をお忘れなく!** せめてメール等で「無事帰国」だけでも現地会員としては報われた気持ちになります。

以上それは「常識で分かっているよ、煩わしいなー」と云われそうですが現実はこの常識の通じない方が残念ながらおられるのです。「いい年をして」とお互い云われたい様にしましょう。

**そこで事務局よりのお願いです。**

現在「南の会」の海外会員が居られる所は、マニラ、セブ、クアラルンプール、ペナン、バンコク、チェンマイ、ロタ、パース、等です。会員の方でこの地区に行かれ、海外会員にお世話になられる予定の方は是非**出発前に事務局海外推進担当(宮崎)または会員担当(酒匂)へご連絡願います。**

メールは [tetsumiyazaki@hotmail.com](mailto:tetsumiyazaki@hotmail.com) (宮崎)

[sakou-k@nyc.odn.ne.jp](mailto:sakou-k@nyc.odn.ne.jp) (酒匂)です。

現地での必要経費等のご相談をし、その地でお互いに嫌な思いをしないで済むようにしたいと考えております。

海外会員メールアドレス(参考資料)

マニラ 塩見氏 [shiomi@compass.com.ph](mailto:shiomi@compass.com.ph)

セブ 鈴木氏 [pillory@rd6.so-net.ne.jp](mailto:pillory@rd6.so-net.ne.jp)

クアラ 末氏 [suehdk@arc.net.my](mailto:suehdk@arc.net.my)

ペナン 木村氏 [y-kimura@comlink.ne.jp](mailto:y-kimura@comlink.ne.jp)

バンコク 五十嵐氏 [teruo\\_igarashi@hotmail.com](mailto:teruo_igarashi@hotmail.com)

チェンマイ 鈴木氏 [kuro2@loxinfo.co.th](mailto:kuro2@loxinfo.co.th)

ロタ 山本氏 [yamarota@gtepacifica.net](mailto:yamarota@gtepacifica.net)

パース 藤本氏 [yi62954@nifty.com](mailto:yi62954@nifty.com)

皆さんとの連絡はメール又は電話で。FAXはチェンマイの場合受信一回に就き約60円かかり、受けられる方に費用が発生しますのでご留意のうえ後日精算されるようお願いいたします。

# 5周年記念行事委員会報告

2004年12月13日

南国暮らしの会 会員各位

- 1 会のシンボルカラーの決定。 会報新年号裏表紙
- 2 シンボルマークのカラー化。 会報新年号表紙掲載
- 3 ネックストラップの作成(1050本)及び会員に配布(今後の入会者には会報と同送)。
- 4 会旗(卓上旗50枚、大型32枚)作成及び国内外支部に配布。
- 5 記念記事、会報に特集を増ページ掲載。

海外暮らし便利帳”医療編”の発刊、 2004年12月 内容 3ヶ国語対訳・診療会話集  
健康な海外暮らし情報資料集  
編集担当 442 平尾守満

5周年記念として以上の事業を完了しました事を報告いたします。

5周年記念事業委員会 委員

101 高澤弘晃 462 小林 孝  
446 山田宏秀 660 平方 穰  
470 細田良子 655 島田榮一  
委員長 327 市東明義

## 意識調査集計報告

### 1 メーリングリスト関係アンケート

1) 貴方は現在のyahooのメーリングリストに問題ありと考えていますか。

1 YES	11	2 NO	157
-------	----	------	-----

2) 監査役が指摘のように、すぐ現在のメーリングリストを廃止し、新規のメーリングリストを作成希望。

1 YES	8	2 NO	142
-------	---	------	-----

3) インターネット委員会の結論である[理事会の承認・又は細則の変更]で問題ない。

1 YES	151	2 NO	7
-------	-----	------	---

4) 上記以外でもっといい解決方法がある。

1 YES	2	2 NO	119
-------	---	------	-----

5) 有料メーリングリストに移行するとすれば、お手伝い願えますか。

1 YES	19	2 NO	125
-------	----	------	-----

6) その他の意見。

### 2 会員名簿関係

1) 会員名簿は

1 必要	164	2 必要なし	11
------	-----	--------	----

2) 必要と回答された方のみ回答。

1 従来の名簿程度必要	97
2 簡略して(会員NO、名前、都市、電話番号、メールアドレス、備考)	50
3 更に簡略(会員NO、名前、都市)	16

### 3 会報返品防止対策

1 回送の必要なし	67
2 着払い又は回送費1回500円負担でもよい。	88

### 4 会員の動静連絡

1 海外支部のある地域に滞在の(短期長期関係なく)場合は当該支部長に必ず連絡する。	107
2 必要ない	54

## 意識調査回答票の意見

記載された意見全てを発表いたします。

- ◎ML今のままでよい。 ◎会員のデータ流出防止が必要。海外視察を観光で終わる事なく、情報収集を確実にお願いしたい。
- ◎名簿は名前、住所、電話、はほしい。 ◎現状のままでよい。 ◎自由な行動を制限すべきでない。(支部長の連絡)。
- ◎会への出欠はML使用禁止。この会は同じ目的を持った人の集う会、規則でしぼらず穏やかな集まり。問題がおきても全て自己責任。
- ◎細かい会則を持ち出して無料MLの広告を問題にするのはおかげている。無駄なお金と作業必要なし。ML現状で十分何の問題もなし。
- これだけ会員が増えると変な人間混じるので名簿は必要なし。 ◎ホームページに掲示板を設置しては？
- ◎全てこのままで不都合なし。動静報告支部長の行動の制限にならないか。 ◎役員に感謝し良識のある会員を増やしましょう
- ◎動静報告は、ツアー等で他に責任者がある場合は除き報告する。 ◎名簿の年齢省略。 ◎代筆しました。(妻)
- ◎会員相互のトラブルの実例を克明に紹介する。 ◎ML初心の井戸端会議でよい。移行に決まれば手伝います。
- ◎監査役知識不足、もしくは個人的なヤフーの不快感ではないですか。総会サロン会の参加は別途個人メールで。
- ◎会員NOやタイトルの記入ETCのルールをもう一度表示し指導いただきたい。 ◎ヤフーの無料MLで問題なし。
- ◎個人同士は個人メールで。賛助会員の廃止。支部長に連絡しなければ・・・おかしい。Eメールアドレスの公開は危険すぎる。
- ◎トラブルを起こした会員は公表し除名(細則に入れ)本部の指導制、会の透明性にかかわる問題。 ◎ヤフー広告問題なし
- ◎添付広告を問題にしているのは筋違い。これだけ役員等、お世話いたदैて下さいます事に感謝しております。ますます盛会を願います(折ります)ご苦勞様です。
- ◎ネット経験なし。お世話になりますご苦勞様です。今年8度目の海外でスリに会いました。IS踏み切れない。 ◎特になし
- ◎ML大変都合よく使っている。まったく問題なし 監査役の判断固すぎ。ヤフーはネット提供者南国の会らしくゆったりとマイベンライで。
- ◎ML現状でOK。有料にする必要なし。名簿は特に世話になった時&御礼のプレゼントをする時必要。海外支部長に連絡はケースバイケース。
- ◎会員が多くなると不逞会員が出てくる名簿の簡略化。会員の詳細は支部長経由で、そのまゝが相互親睦につながる。
- ◎監査役さん、頭の切り替えを。勉強不足。有料メーリングリストに移行バカバかしい。 ◎ネット関係特になし。
- ◎メーリングリストの広告は当会と関係ないことを規約にうたっておれば十分である。 ◎全て問題なし。
- ◎今までで問題なし。使用メールの制限を。会員が増えた成果、殺伐としてきた。何かの方向転換を。 ◎ML私信が多すぎる。
- ◎あくまで自己責任、役員負担をとにかく減らす。 ◎MLは個人メールすべきでない。
- ◎ADSL対象としたMLを、HTMLにならないか?、会報のネット化。 ◎海外支部へ連絡は個人個人の考え方でよい。
- ◎会が拡大発展はけっこう、会則、細則非縛られるようだと不自由。会員の動静連絡も自己責任で。
- ◎会員名簿にNOを入れ秘密保持する。あうえお順の名簿がほしい。 ◎関東を3分割サロン会を年3.4回
- ◎海外へ出るときはグループメールで送信。会報に有益情報をまとめて編集してほしい。 ◎ML現在のままで可。
- ◎皆様のおかげで楽しく過ごしております。 ◎監査役にトンチンカンな指摘を受けたことが被害。
- ◎ML現状何の問題なし。ヤフーの広告があっても利用しない。又その程度のことを問題にするほうが場違い。役員各位ご苦勞様です。
- 今の方法で問題ありませんのでよろしく。 ◎動静連絡支部長の負担が大きいのではなないか。
- ◎MLはまったく問題なし。名簿は出来るだけ詳細な情報を書き入れる。同好の志が声をかけやすいよう、趣味道楽。
- ◎いつもお世話になるばかりで理事会の決定事項は尊重していきたいと思っています。 ◎ネットやらず。ベナンの安宿紹介希望。
- ◎幹事さんご苦勞様です。いつも感謝しています。今後ともよろしく願ひいたします。 ◎広告は日常的に気にならない。
- ◎ヤフーの広告については自己責任であることの明示をすればよい。 ◎海外支部に限り期間とスケジュールを連絡しておく。



◎地方のため何のお手伝いも出来ないが感謝していますお手伝い出来ない分本部の方に負担が重ならない様心がけています。

◎ML今ままでよい。九州が住まいのため家で出来るお手伝いが出来れば、MLで有益な情報たくさんいただいています。

会報発行作業お手伝い出来ず申し訳ありません。

◎出来るだけ多くの会員がメールできるように。

◎海外の良いこと悪いこと知らせて欲しい。より有利に失敗しないため。

◎規則がうるさくなると返って面倒。

◎細則をたては利用厚生を損なう様な事は止めて欲しい。それなら細則を改めればよい。ヤフーグループのグループメニューの居用や参加設定の

変更を会報で周知しては？ML加入と非加入ではデジタルデバイドが生じているので仕方ない。同一会費で問題はありませんか。

◎名簿が外部に漏れて迷惑メールが非常に多くなった。セキュリティの確立を。

◎MLに広告があっても気にほならない。

◎MLはタイトル付けの徹底。女性の年齢記載なくても困らない。

◎MLでの会の出欠連絡は問題あり。

◎各支部長を会報に乗せて欲しい。

◎MLまったく問題なし。現行で結構。広告見たことない。全て自己責任。

◎MLで添付は出来ないか。承認細則にのままでよい。あまりに個人メールが多い。共通情報交換の場としたい。

会員の多くの情報が欲しい。各項目の希望により非公開名簿発行歯抜けでよい。

◎会員がSLしている各国へ最初に行くときのホテル(お薦めの)紹介記事(日本から予約可能なホテル)TELや金額など……。

航空運賃などML上常時間閲覧できるコーナーが欲しいと思う。

◎メールリスト移行、出来れば手伝いたい。知識がない。

◎今回監査役として立派な仕事をしたいと思います。

全て自己責任。広告は会の推薦でよいことを理解。

◎名簿は簡略化したほうがよい(理事、監事、支部長は従来のもので)。

◎ヤフー広告、問題定義に当たらず。参加は個人自由意思で入会が原則であるので、会の責任というのは不可解。

◎会員のトラブルは自己責任である。支部長に連絡を強制するのは管理的に過ぎる。会員本人に任せるべきである。

◎私自らできませんがホームページの充実。

◎今は体調をくずしており、よくなり次第協力させていただきます。

◎海外支部長には長期の場合は連絡する。

◎海外支部長には必要と判断したときのみ。

◎紳士的な交流の中で気持ちよく情報交換が出来る会にしていきたいと思ひます。静かに楽しみたい場合もあるので支部長に連絡必要なし。

◎なぜYAHOOの広告にこだわるのか？です。海外支部への連絡は短期はとうよりは今まで連絡したことが

ありませんでしたのようですうにしたいと思ひました。

◎ML見たことがないのでよく分かりません。

◎広告あるのは問題あり。南の会のドメインを取りメールアドレスも切り変えると将来のインターネット電話が

会員同士で格安に出来る。有料MLに移行の際は協力する。

◎今後はネット配信が望ましい。毎回会報を楽しく読ませさせて頂いていますが、全体として旅行記のようなものが多く、

もっと辛口のコメントも欲しいと思ひます。

◎問題なしヤフーの広告は当たり前。監査役の指摘は現在の方法を変えなくてはならない。決定的な指摘とは思えない。

4の件プライベートな事に必要以上立ち入らないほうがよいと思う連絡する事は、任意に任せるべき。

返信数は188通でした。アンケート調査ご協力ありがとうございました。

調査担当理事

281 村松幸子

446 山田宏秀

327 市東明義

## 関西支部 行事報告

### 支部長 森川 清

②ダバオ支部長 平野 雅一氏を迎えて  
サロン会。9月19日 午後1:00～  
於、大阪東淀川勤労者センター  
急の招集でしたので12名の参会者。

- 1) ダバオへのアクセスでフィリピン航空を  
まえば、預けた荷物はダバオで受け取れる。
- 2) ダバオはフィリピン第2の都市、台風の心配  
殆ど無く、地震も少ない。
- 3) 水は飲用可、水質は日本と同等以上。  
魚は新鮮だが味は淡泊。公設市場が新鮮で安い。  
主居は新築2LDKで家賃、月12,000～30,000ペソ。
- 4) 現時点ではリタイアメント・ビザ取得の  
メリットはない、観光ビザ21日間で入国し延長  
は入管ダバオ事務所でも可能。  
先ず数ヶ月生活してみて、自分の出来ることを見  
いだすのが良い。

ダバオで当会の支部長、日比ボランティア  
協会の現地スタッフとしてご活躍の氏の熱情が伝  
わって来る会でした。

平野様有り難うございました。

③チェンマイ支部長 伊沢 豊氏、同地にロ  
ングステイ中のNo. 575 阿川 昌夫氏  
ご夫妻にお出で頂きサロン会。

10月3日 午後1:00～於、大阪東淀  
川勤労者センター  
参会者 28名

一時帰国中の阿川さん夫妻のお話で伊沢支部長のお話を交え、大変有意義なサロン会でした。

- 1) 阿川さんの住居はチェンマイ郊外の一戸建て  
家賃月4万5千円(敷地150坪、2寝室、台所  
別棟、家具付)  
契約内容が全て満たされていることを確認後入居  
する。予告なしの断水が比較的多い。下水整備が  
遅れており水捌けが悪く、よく浸水する。  
生活費は自炊、外食半々で月12万円位(ゴルフ  
三昧、光熱費込み)  
4月が一番暑い、6～10月は雨季で日に2、3  
回スコールがあり、曇りがち。タイ人の最も好む  
季節。等々。

豊富なチェンマイ情報、就中、奥様のお話は女性  
出席者に大変参考になったと思います。

伊沢支部長、阿川さんご夫妻有り難うございま  
した。

### ◎支部秋季例会

11月16日 午後1:00～

於、大阪 ココプラザ、参加人員 37名

ペナンにロングステイされているNo. 12

大橋 績氏ご夫妻に体験報告をお願いしました。

- 1) 治安は比較的良いとされているが、対人口比  
の犯罪発生率は日本より相当高い。クレジットカード  
の使用には特に注意。
- 2) コンドミニアム等の契約に際し必ず新しい鍵  
に交換させる。
- 3) 一時帰国等で長期間留守にする時は親しい知  
人以外に口外せず、留守を覚えられないようにす  
る。

#### 実際の生活

- 1) 家賃、衛星放送、電気、ガス、上下水道費月  
約6万円。食費約4万円。その他を含め10～1  
3万円で2人生活できる。
- 2) 女性の方が日本人会のサークル活動等に積極  
的に参加しロングステイライフを満喫。
- 3) 価格は均一ではなく、裕福と見られれば相対  
的に高い金額を請求されるが、それがルールと受  
け入れること。
- 4) 過ごしやすいのは8～10月、暑いのは旧正  
月前後、4・5月も。

一年の大半をペナンで暮らしておられる大橋さ  
んご夫妻のお話は貴重でした。

ご夫妻、長時間有り難うございました。

休息後テーマ別の話し合いを持ちました。

A) ステイ先の選択と理由 参加21名。

イ. ステイ先を何れにするとしても100点満  
点で100の所は無く、60点未満の落第点の所  
も無い。目的を絞って自分に合った所を探し出す  
ということである。

ロ. 東南アジアのステイ先で、首都は別としてペ  
ナンは都会でその他は田舎と考えて差し支えな  
がらう。

B) 南国暮らし実現後の楽しみ方 参加16名

イ. 出席者の大半がペナンを候補地とし、数名  
チェンマイをお挙げました。

ロ. 南国暮らし実現後はあくせくせず、家事もせ  
ずボーとして居たい。

ハ. ゴルフや隣国への旅行を楽しみたい。

このグループには大橋さんが加わりました。

この後懇親会をもちました、皆さん和気藹々。

7時半散会いたしました。

## 関東支部

関東支部長 呂崎 哲郎

### 1. 関東支部サロン会（9月、10月）

<9月サロン会>

出席者：74名

サロン会と関東支部会が行われました

1. サロン会：セブ川上支部長、平野ダバオ支部長、バリ島小林さんが現地のそれぞれの状況を説明されました。またLSバリ、ペナンLS体験を524川崎さんが報告。会員より現地の方との交流が多かったとお話はなかなか示唆にとんだお話でした。

2. 関東支部会：関東地区別活動の連絡網の件でその趣旨の説明と各地区別の席を設け分散し熱心な意見交換が行われました。各地区責任者に連絡網配布を行いました。

<10月サロン会>

出席者：15名

この日は大型台風が関東直撃でした。世話人2人で「わびしさや、二人なりけり 秋台風」（安藤さん発句）で閉会を考えましたが、もしかして来れる方があれば開催、この悪環境にも関わらず15名の熱心な方が来られましたので、急遽木内夫妻のご両親とのチェンマイ生活報告、そしてセブ川上支部長のフィリッピン人のホスピタリティについてのお話を頂き、アラスカ・カナダクルーズのビデオ鑑賞を実施しました。いつものように懇親会をフェスタガーデンで行い終了時には台風も通過、快晴となりました。少人数で和気藹々のムードでした。

そこで安藤司会者のもう一句「台風の 去って南国 サロン会」でメデタク締めでした。

### 総務(事務局)担当より

担当理事：宮崎哲郎／菊地 功/高田勝弘

#### 1. 10月以降の総務部門の主な活動は以下の通り

11月08日(月)：企画委員会。

11月14日(日)：16年度第4回理事会。

11月24日(水)：都に新定款(理事20人)・役員変更届出および品川法務局に新理事7人の登記。

12月04日(土)：16年度第5回理事会。

12月12日(日)：支部推進部会に宮崎・菊地出席。

ペナン支部長クレーム問題検討。

#### 4. 新理事の紹介

下記7名の方々が新理事として正式に承認され、11月24日各種手続きを終了しましたので、ここにご報告します。

\*No.6 石川綏夫理事：広報担当

\*No.240 菊地範夫理事：厚生・支部推進担当

\*No.281 村松幸子理事：調査担当

\*No.462 小林 孝理事：会員担当

\*No.700 安藤公二郎理事：インターネット・厚生担当

\*No.740 渡辺亜雄理事：会報担当

\*No.814 平賀國廣理事：会員担当

#### 3. 商標登録の件

10月15日付けで、当会のロゴマークが登録第4810100号として商標登録されたことを証する商標登録証が交付された(本登録証の写しが新年号に掲載されています)。これで今後10年間、登録証記載の指定商品および役務において、当会以外のものでこのロゴマークを使用することは出来ないこととなります。尚、前秋季号にも記載しましたが、指定役務の文言に違和感があるのは、当初申請した「海外滞在に関する情報の提供」が区分の特定が出来ないという理由で特許庁に拒絶され、この文言を指定されたため、やむなく理事会の承認を経てこの文言で再申請したものです。たぶんロングステイ、ショートステイという概念が比較的新しく、まだ特許庁に馴染んでいないのではないのでしょうか。

以上

支部担当より 担当理事No3 池田

支部担当部会を酒匂理事長、市東関東支部副支部長の臨席のもとに開催し、国内外支部の活動状況と課題について協議した。

a 海外支部ペナン支部長の申し入れとその対応等

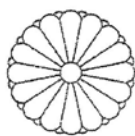
b 昨年同様に17年度行事計画表の提出依頼を1月中旬ごろに、16年度事業・会計収支報告書の提出依頼を2月中旬ごろにする。

c その他下記につき意見交換があつた。

・支部の組織的活動を推進するための具体的方法について

・関東支部の地区連絡網の整備状況とその活動状況の推進について

・「九州支部から提案のあった支部規約案の対応について」



商標登録証  
(CERTIFICATE OF TRADEMARK REGISTRATION)

登録第4810100号  
(REGISTRATION NUMBER)

商標(THE MARK)



指定商品又は指定役務並びに商品及び役務の区分(LIST OF GOODS AND SERVICES)

第16類 雑誌

第43類 ホームステイのためにする宿泊施設の提供に関する情報の提供

商標権者(OWNER OF THE TRADEMARK RIGHT)

東京都品川区東品川3丁目22番20-1208号

特定非営利活動法人南国暮らしの会

出願番号(APPLICATION NUMBER)

商願2003-098310

出願年月日(FILING DATE)

平成15年10月24日(October 24, 2003)

この商標は、登録するものと確定し、商標原簿に登録されたことを証する。  
(THIS IS TO CERTIFY THAT THE TRADEMARK IS REGISTERED ON THE REGISTER OF THE JAPAN PATENT OFFICE.)

平成16年10月15日(October 15, 2004)

特許庁長官(COMMISSIONER, JAPAN PATENT OFFICE)

小川



## 理事長からのお願い

平成17年1月12日

理事長 酒匂 景輝

### \*ペナン支部長よりのお願いの件

平成16年11月末ペナン支部長木村氏より、「最近のペナンのロングステイ事情」と言う手紙をいただきました。その中で、ペナン島に日本人のロングステイヤーが増えるに従って、そのマナーの悪さがペナン島の人たちの口端に上がってきており、在住の日本人長期滞在者の「南国生活」が、損なわれかねない状態になりつつあると訴えておられます。マナーの悪さの事例を一読しますとそれは大部分の会員諸氏にとっては正に青天の霹靂の内容です。勿論全てが当会会員のものではないと思いますが、同じ日本人会員の我々にとっては本当に赤面の内容です。

現地の人を相手にした当事者達も多分日本人相手では、このような振舞いには至らなかったのではないのでしょうか。言葉の問題もあるでしょうが、多分現地の人たちより自分を一段上において物事を考えているのではないのでしょうか。

また本人達は、自分達の行為が、現地に根を下ろしてLSライフをエンジョイされている会員諸氏に、これまでの努力を台無しにするような影響を与えているとは、全く思ってもいないのではないのでしょうか。

このようなことが今後も続くようだと、当会発展の原点である海外支部の衰退につながり、当会の根幹も係わる深刻な問題になりかねません。

### そこで会員の皆様をお願いします。

ペナン支部長の言葉を借りるまでもなく、海外でも現地の方々と同じ目線で接して下さい。契約（口約束）直前にキャンセルしてペナルティを支払わない事は、日本では場合によっては許されると言われる行動かも知れませんが、ペナンでは全く許されない行動です。迷っている場合は「契約」という言葉を絶対口に出さない事です。日本では仮契約といって、数万円払い不履行時はペナルティとして没収されます。が、マレーシアでは一応日本人は信用されていて、口約束でも仮契約されたと思い約束を守ってくれる。要するに同じ日本人が既に居住しておられる現地だからこそ、後から訪れる会員はその住環境を乱さない配慮が必要だと考えて下さい。

以上ペナンに限らず、これからご自分の南国を探しに海外に行かれる会員の方は、ご自分が知らぬ間に在会会員の方に対する加害者にならないようくれぐれもご注意ください。

とにかく、先輩方のアドバイスを真摯に受け止め「郷に入っては郷に従え」を実行して下さい。

以上

### \*外国支部のサポート出来る事について

海外支部に於いてはペナンに限らず、大なり小なりの同じ様なトラブルが発生しております。よって今回チェンマイ支部とペナン支部から下記の表題にて連絡を頂きました。本事項は「南の会必携」に綴じ込んで頂き渡航時の参考にして下さい。

尚 外の海外支部でも同じ様な支部内規を提示して頂けるとトラブル発生は半減すると思います。

- ・チェンマイ支部との提携業者。
- ・ペナン支部がサポート出来る事。

### \*平成16年度後半の役員業務分担表について

16年10月1日に定款変更が認証され理事5名増の20人体制が確立できました。よって役員業務分担を変更しましたので添付致します。会員名簿に閉じ込み有効にご利用ください。

## 表紙写真について

埼玉県在住 NO. 345 藤巻 雄二

毎日皆様のメールでの海外情報を目にしている者ですが、ようやく写真クラブの仲間と10月下旬セブ島に行くことができました。

4泊5日の短い旅行でしたが、マクタン島での朝夕の海、そして空の美しさに魅せられて、写真を撮ってきました。

掲載していただきました背景写真と、はめ込みの右の写真は2日目と3日目の朝の写真です。日

頃よく撮影に出ていますが、日本の空の輝きとは少々異なっていました。

半年前よりPCでの画像処理を若干覚えまして、何枚かの写真を観光パンフレット風にしたみた写真です。

バリ島もそうですが、セブももう一度挑戦してみたい場所となりました。

### 寄付金有り難う御座いました。

\*会員No.801：嶋田 栄一 様（東京都世田谷区）¥4,000-

#### \*スマトラ沖地震・大津波義援金の件

平成17年1月8日に行われました関東支部サロンに於いて、昨年末のスマトラ大地震、大津波の被災者の冥福と我々の元気で幸せな今日に、感謝の意をこめて黙禱を奉げました。

その折、私共がお世話になる南国の被災者に、皆様の明日のコーヒー代を節約していただき、義援募金を提案し、献金箱を回覧しましたところ皆様お屠蘇気分が抜けていなかったのか、¥34,110-もの献金をして頂きました。

本募金は会の寄付金勘定に繰り入れ、日本赤十字社経由にて、被災地の支援に役立てて頂きます。会員の皆様誠に有り難う御座いました。

理事長 酒匂 景輝

### 「南国暮らしの会」からのお勧め

- \* 自己責任
- \* 納得の上
- \* 自己決定

南国で買い物をするときは、

すぐ買わず、

情報を幅広く集めて、

自分の目で確かめて、

しばらく試してみて納得してから、

自分の責任において自己決定する。

## 平成17年度継続会員申込み受付

恒例の年度替り継続会員の募集時期になりました。別添の郵便振替用紙にてお振り込み下さい。本会の17年度は4月1日からです。

会費は年度会費制で途中入会者に対して月割り計算は致しません。但し当年度発行の資料は全てお届けしております。

16年度途中入会者で違和感をお持ちの方もいらっしゃるでしょうが、17年度会員として継続される場合は新年度の会費を拠出して下さい。

- ・納入期日 : 平成17年2月末日
- ・注意(1): 期日までに会費未納者には1回催促し、それでも未入の場合は退会者として扱い、会員名簿から削除されます。(細則第9条6項)
- ・注意(2): 10月1日以降の復帰者は再入会金5千円が必要になります。(細則第9条8項)
- ・お願い : 郵便振替用紙の通信欄に必ず会員NO.をご記入下さい。

## 編集後記

新年号にはNPO法人取得5周年記念特集も組み入れました。

国内外の各支部長、会員の方々には、急な原稿依頼にも拘わらずご協力いただき有難うございました。

新年号記念特集の編集に当たっては、編集委員の酒匂理事長、山田理事、高田理事の4名で行いました。

本会報は新ソフトで、不慣れなパソコン作業でしたが、「南の会パソコン教室」の宇野修先生(トータルサポートぷらざ&ピーシータウン主宰)のご指導を賜り編集することが出来ました。深く感謝申し上げます。

新年号担当 655 島田栄一

## 原稿募集

次回「春季号」は4月発行です。

原稿の締め切りは2月末日が目安です。

記事の無断転載、複製を禁じます

発行者 特定非営利活動法人(NPO法人)  
「南国暮らしの会」

理事長 酒匂 景輝  
〒140-0002 東京都品川区東品川 3-22-20-1208  
TEL 03-3472-9916 FAX 03-3472-9954

NANGOKUNANGOKUNANGOKU



NANGOKUNANGOKUNANGOKU